

東京都水産試験場調査研究要報24

東京都文書課登録第1,230号

ひきなわ(曳縄)漁業の漁具・漁法

東水試出版物通刊 No. 130

昭和35年9月

東京都水産試験場

序

沿岸漁業の漁具・漁法は、その地方の特殊性に応じてそれぞれ特徴をもっており、これを比較検討して改良研究の資料にすることは沿岸漁民のすべてが熱望していることと思います。

そこでこのたび沿岸小型漁船のほとんどが操業している「ひきなわ」漁業の現況について各県水試に御協力を願うとともに、社団法人漁村文化協会発行の「漁村」に掲載された各地のひきなわ漁法の内から参考になると思われる漁具・漁法を抜粋して取りまとめてみました。

各地の海況、地形、漁期等の相違により、魚群の状態も異なるためか、漁具漁法も多種多様にわたるので、比較しやすくするために、漁具については、北海道、太平洋北部から南部、九州、日本海西部より北部の順で一覧表を作製し、また漁法については、操業上参考になると思われる事項を抜粋して記載しましたので、皆様方漁業者の参考資料となれば幸いです。

終りに、資料の御提供に格別の御高配を賜わった北海道立水産試験場・青森県水産試験場・福島県水産試験場・千葉県水産試験場・千葉県銚子水産事務所・神奈川県水産試験場・和歌山県水産試験場・高知県水産試験場・福岡県福岡水産試験場・大分県水産試験場・宮崎県沿岸漁業指導所・熊本県水産試験場・鳥取県水産試験場境分場・兵庫県水産試験場・京都府水産試験場・石川県水産試験場・新潟県水産試験場・山形県水産試験場・秋田県水産試験場に対し厚く御礼申し上げます。

昭和35年9月

東京都水産試験場長 鈴木 順

19	石川 県	(I)	ブリ曳縄漁業	40
		(II)	シビ仔(メジ)曳縄釣	41
20	新潟 県		ブリ曳縄漁業	45
21	山形 県		ブリ(イナダ)曳縄釣漁業とカツオ曳縄釣漁業	46
22	秋田 県	(I)	ブリおよびカツオ曳縄漁業(その1)	47
		(II)	" " (その2)	48
II 改良型曳縄漁業				49
1	中層2段曳曳縄漁業			49
2	棚深し曳縄釣漁法			50
III 出漁船の操業に関する参考事項				53
1	ブリ曳縄漁業			53
2	マグロ曳縄漁業			53
3	カジキ曳縄漁業			54
4	サワラ曳縄漁業			54
IV 各種曳縄漁具一覧表				55
	ブリ曳縄漁具一覧表			55
	マグロ, カジキ, カツオ, サワラ曳縄漁具一覧表			57

目 次

I	各県のひきなわ漁業	1
1	北海道 (I) ブリ曳縄釣	1
	(II) 小マグロ曳縄釣	3
2	青森県 ブリ・マグロの曳縄釣	4
3	岩手県 イナダおよびフクライ曳縄	5
4	福島県 イナダ曳縄を主としたもの	6
5	千葉県 (I) ブリ曳縄漁業	7
	(II) メジ(クロマグロ若年魚)曳縄漁業	9
	(III) カジキ曳縄漁業	10
6	千葉県 (I) カツオ・メジ・ワラサ曳縄漁業	11
	(II) ブリ曳縄漁業(多釣釣)	12
7	東京都 ブリ上層曳縄漁業	13
8	神奈川県 ブリ曳縄漁業	14
9	静岡県 ブリ底曳縄漁業	18
10	和歌山県 (I) 大型マグロを目的とするもの	19
	(II) マグロ幼魚を目的とするもの	20
	(III) マルソーダを目的とするもの	21
11	高知県 (I) メジカ曳縄釣(ソウダカツオ曳縄釣)	21
	(II) カツオ・ヨコ曳縄釣	23
12	福岡県 (I) サワラ曳縄(その1)	23
	(II) サワラ曳縄(その2)	24
	(III) ブリ曳縄	25
	(IV) コチ一本釣	25
	(V) ヒラメ釣具	26
13	大分県 ヨコワ曳縄漁業	27
14	宮崎県 マグロ・カツオ曳縄漁業	28
15	熊本県 (I) ブリ曳縄漁業	29
	(II) サワラ曳縄漁業	31
	(III) シビ曳縄漁業	33
16	鳥取県 ブリ曳縄漁業	35
17	兵庫県 ヨコワ(仔マグロ)曳縄釣	37
18	京都府 ブリ曳縄釣	38

I 各県の曳縄漁業

1 北海道

(I) プリ曳縄釣

(1) 漁具漁法の要点

- ① 曳縄は何本曳が理想的か — 地方によつて異なるが3本曳が最も理想的で常に魚を喰わせるように操作することがコツです。
- ② 曳縄は何米位延ばしたらよいか — 曳縄の長さは漁獲に大きい影響があるので特に注意を要します。長さを決定するには先ず漁船の大きさ、速力によつて決定しますが、プリ類は非常に泡を嫌うので舳またはスクリーンから出る泡が航走中何米位で消えるかを確認して泡の消えたところから15.2~22.7m(10~15尋)延ばせば一番理想的です。4~5馬力程度の船でかりに30.3m(20尋)で泡が消えるとするれば45.5~53m(30~35尋)延ばせばよいわけです。

また、風の場合と時化の場合の泡の消え方が異なるので消え方に応じて加減します。3本延した場合、擬餌の位置が3箇共一線上に並ぶようにしないと長短がある場合には長い方にのみ釣獲されるので注意を要します。
- ③ 曳網の間隔をどの位にしたらよいか — 曳網の間隔、即ち角の間隔はなるべく広く保ち、3本曳く場合はa, b, cの間隔が等間隔でなければなりません。
- ④ 曳網の操作はどのようにしたらよいか — (張り出竹, トツタリ, 又木, トツタリオモリ)以上のようにするためには、なるべく舳の方に又木を2本立て、長い竿(大体7.575m \div 5尋位)を張り出し、トツタリ網を付けその先にくの字型のトツタリオモリ(18.75~22.5m \div 50~60匁)を付けてハネ切りに曳縄を接続して延します。トツタリオモリは下部の方に重心のある物を使用します。これは振動により擬餌の踊りが良くなります。

ハネ切りは2つ付ける場合もありますが1つでもよいです。

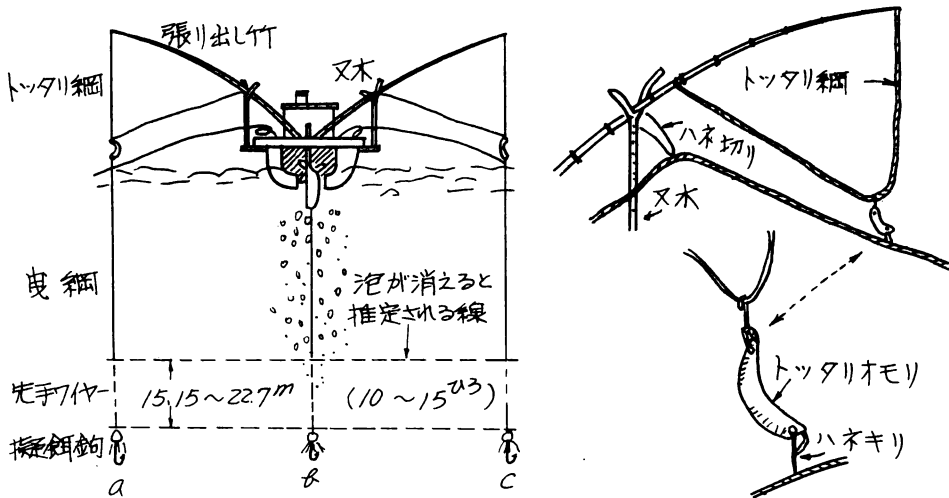
トツタリオモリ、ハネ切り装置は別図のとおりです。

(2) 漁船: 1.5~5吨 5~20馬力, 乗組員1~3名

(3) 漁具および付属具の構造

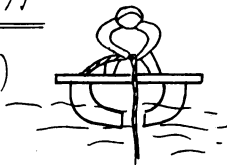
- ① 曳縄—綿糸左33打6, 8, 10号を2つ併せにして各45.5m(30尋)宛先手に20~25号程度の綿糸をセキマキしたもの15.2m(10尋)計151.5m(100尋)準備します。
- ② 先手ワイヤー—3ツ撚り24番線程度のもの2.3~3m(1.5~2尋)
- ③ 擬餌鉤—発光プラスチック製の角に桃色鳥毛を付けたもの。
- ④ 又木—腕長短のもの2本

- ⑤ 張り出し竹 - 7.6m (5 尋) 位の長い竹 2 本 (なるべく弾力性のあるもの)。
- ⑥ トツタリ綱 - トツタリオモリが海面すれすれになる程度に付けます。
- ⑦ トツタリオモリ - 18.7.5 ~ 22.5 y (50 ~ 60 匁) のくの字型のもの。
- ⑧ ハネキリー - 曳綱より弱い綿糸

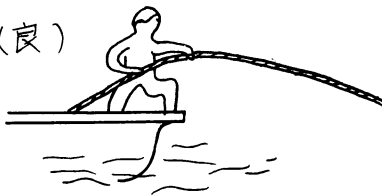


たぐり方

(不可)



(良)

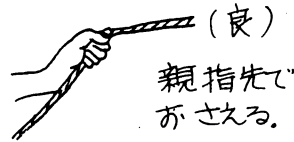


綱の握り方

(不可)



(良)



(4) 漁期: 6 ~ 11 月, 盛漁期 10 月中旬 ~ 11 月上旬

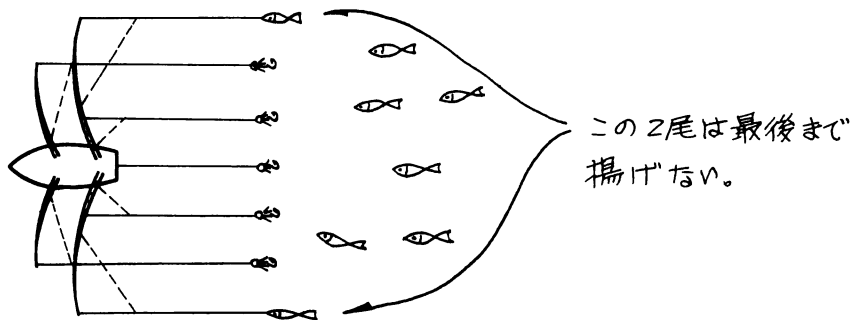
(5) 漁獲量: 1 日平均 - 17 本前後, 魚体平均 18.75 Kg (5 x)

10 月 2 日から 11 月 3 日までの総漁獲 318 本 (3.975 Kg) 宗谷地区の例

(II) 小マダロ曳縄釣

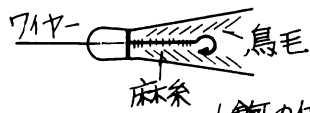
(1) 漁法

- ① 漁獲の適時 - 曇天で風のある時、雨模様の方がよく特に注意を要する点は、マダロの習性として潮上および風上に遊泳する特徴があるので船の運用に十分注意を要します。
 - ② 漁獲のコツ - マダロは1尾で遊泳することはなく大なり小なりの群となつて回遊するので、左右両端に釣獲した魚はすぐ取り上げずに最後までおき、『おとり』としておくことがコツです。
- (2) 漁船：5～8HP着火船から15～16HPの小型発動機船、乗組員1～3人。
- (3) 漁具および付属具の構造：ブリの曳縄釣と大体似ていますが、異なる点を挙げると次のとおりです。
- ① 角 - マダロの場合はなるべく白っぽい色をさけた方がよいです。
 - ② 鳥毛 - ブリと同じく桃色の毛にブルモースを混色しています。枚数は15～20枚前後。
 - ③ 釣鉤 - ブリと同様1本爪でも2本爪でもよく、短く付ける事がコツです。
 - ④ 釣元ワイヤー - ブリと同様のものを使用しますが、長さは1.8m(1尋1尺)位です。



マダロ鉤の位置

ブリ鉤の位置



(鉤の位置を短く付ける)



(鉤の位置を長く付ける)

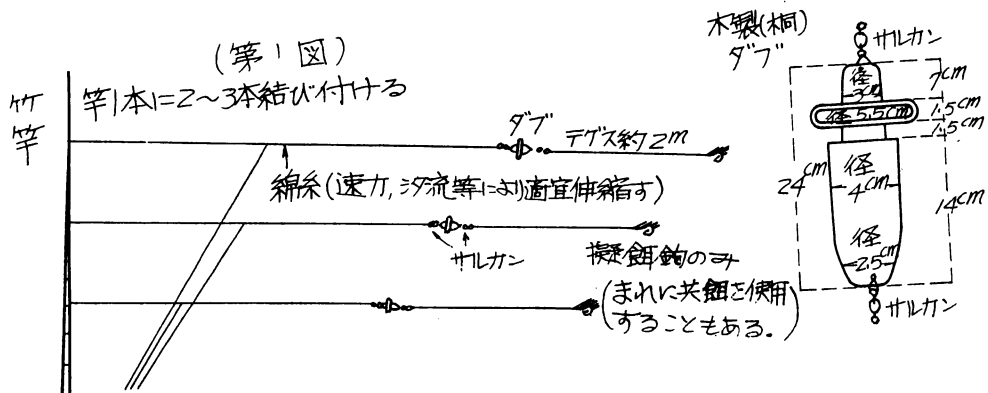
(4) 漁場：天壳，焼尻周辺，羽幌，苫前，増毛，積丹。水深1.5～2.3mの処。

(5) 漁期：7月上旬～11月上旬

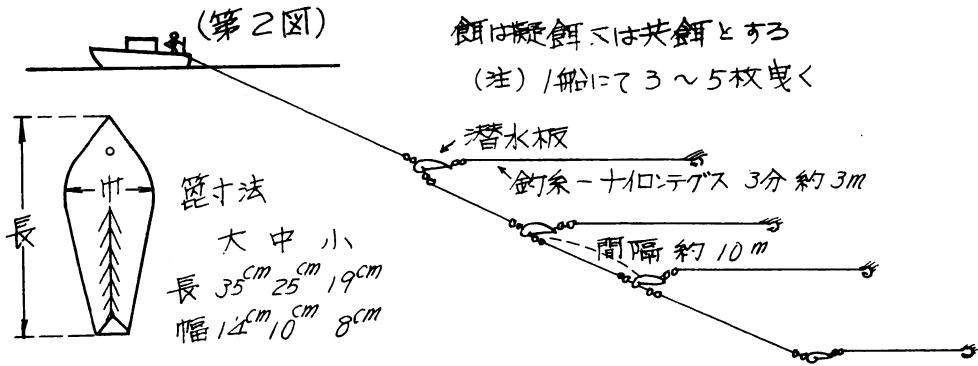
(6) 漁獲量：1隻1日-5~6尾から15~16尾

2 青森県

- (1) 漁法：ブリ、マグロの曳縄釣は1隻にて4~6本の竹竿を使用し、これに別図(第1図)の曳縄漁具を12~20本を結び付け全速にて曳航する。釣獲は船を回転せず巧に舵を操り船を蛇航しつつ釣揚げる。
- (2) 漁船：主体となる漁船は小型動力船にて屯数は1屯以内から5屯で馬力は大体3馬力から10馬力以下が多い。乗組員は大体1人で稀に2人のものもある。
- (3) 漁具：別図(第1図)の通り。



- (4) 漁場：距岸1~5哩の海域、水深40~50m以深、底質砂又は泥、潮流は北東が多い。
- (5) 漁期：ブリ、マグロ 初漁期-9月初旬、盛漁期-9月中旬~10月中旬、終漁期-10月下旬
- (6) 漁獲高：ブリ、マグロ 漁期間最高漁獲-30万円程度、平均-12~16万円程度
1日最高漁獲-80Kg内外、平均-20~30Kg内外
- (7) その他参考事項：潜水板を利用するものにマスの曳縄があり、これが漁具図は別図(第2図)の通りである。なお漁期は2月から4月頃で漁法の異なる点は微速にて曳縄し釣獲の時は船を回転させて除々に釣り揚げる。

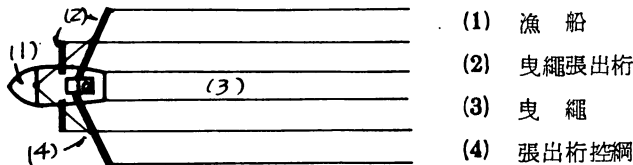


3 岩手県(岩手県の漁業の実相・昭和29年12月)

イナダおよびフクライ曳縄

(1) 漁法: 沿岸の定置にフクライやイナダの漁獲があつた場合出漁する。漁場を発見すれば全速で船尾から1人で2組ずつ計6組の漁具を入れ、曳航すると潜水板は曳航中は中層に沈降し、魚が喰えばその抵抗によつて板は反転して自然に浮上するので、この場合魚を引きつけるに容易となり、これを交互に繰入れ操作するものである。この場合曳網は船尾より流出する。スクリュウのモジの消える範囲外にのばさねばならぬが、魚群の濃厚な場合にはこのモチの中でも容易に釣れる。曳航時間は午前と午後を通じて1日5~6時間位である。

漁場における海況及び漁況との関係は、(イ)潮目を発見することは他の回遊魚と変りない。(ロ)潮流の速い時、漁獲が多い。(ハ)午前および午後の沿岸潮の変わり目に注意すること。(ニ)天候の変化する前日は最も良い。



(2) 漁船: 小型電気着火船, 2~3吨, 乗組員2~3人

(3) 漁具

① 曳航索..... ナイロン8厘を擬餌鉤部には1尋, 手持繩にはその時の状況により適宜の長さで使用する。

② 潜航板..... 桐板長さ5.2寸, 幅前面1.3寸後面1.2寸で曳縄取付部は前面1.5寸後面5分位のところに穴をあける。

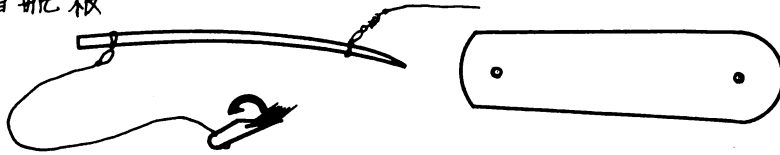
③ 擬似餌..... パイプ小角9号, 皮はナイロンを使用する。

(4) 漁場: 大槌湾口から三貫島を経て首崎付近までである。

(5) 漁期: 8月から9月のスルメイカの漁開期

(6) 漁獲高: 1日当りの漁獲は昭和28年度 最高60~70貫, 最低15~20貫

替航板



4 福島県

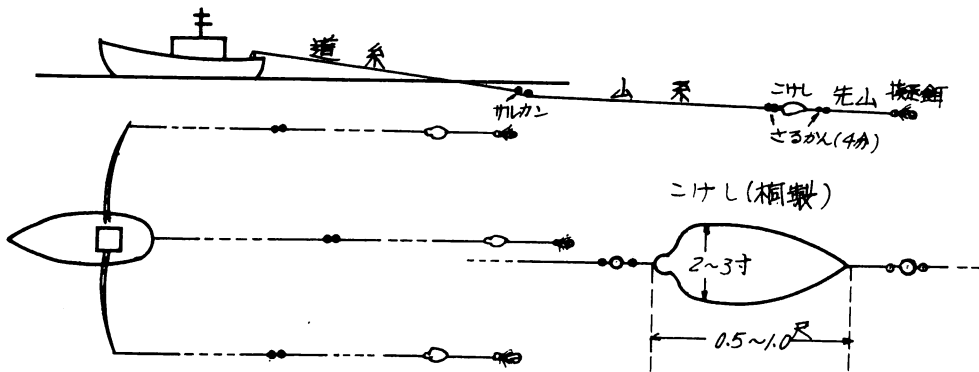
イナダ曳縄を主としたもの

- (1) 漁法：潮流風向に関係なく『こけし』による風波の抵抗のため上下左右に振られ擬餌は踊り漁群が活発につく。又、水面に接するへんに30匁位の鉛を付け『こけし』同様水面をたたいて擬餌を有効に利用する。

1~2名乗で3本, 3名乗で4本を曳くがこの操作は2名でやるのが適当である。

- (2) 漁船：2~3屯 10~25HP 3~4名乗組

- (3) 漁具：道糸-麻糸, 絹糸, テグス 1.3~1.5分柄 10尋
 山糸-ナイロン 1.2~1.5分柄 10~15尋
 先山-ナイロン 1.0~1.2分柄 2尋
 釣針-擬餌 (薄赤色毛, フグ, イナダ, シイラ, ネコの皮)
 カグラ-牛角, 鹿角, 梶木, ガラスメツキ, 4ツ目
 コケシ-浮子 (前述の役目をする)



- (4) 漁場：本県沿岸で潮流, 水深, 底質等余り関係なく魚群の来遊あれば曳縄を行う。
 (5) 漁期：7~11月に亘り, 9~10月が盛漁期 (年により変動する)
 (6) 漁獲高：統計にはつきりと現われないので掲めない。

好漁の場合は50貫程度の漁獲がある。

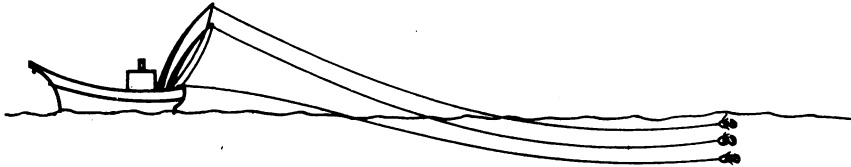
(7) その他参考事項：メジ、カツオ等の曳縄漁具も実施するが、カツオは魚群発見と餌付状況調査のためであり漁具その他は前記と殆んど同じで只釣針が大きく2本爪のものを使用する。メジ、シイラは漁具、漁法がイナダと同じである。

以上の曳縄具は本県従来のものに、『こけし』その他については茨城県大洗、千葉県勝浦方面より導入改良したものです。

5 千葉県（千葉県水産試験場）

(1) プリ曳縄漁業

(1) 漁 法：漁獲は朝夕の薄明に多いから暗いうちに出港して漁場に向う。曳縄は3本曳くときは同長にし「ホロ」の間隔を同長にする。風上舷の張出竹は高く上るからやや低めに付ける。航走中は船尾からのばしている縄は竹独特のしなないがないから乗っている者が時々しやびく、旋回する時は中央の縄を5～6尋たぐると3本がもつれることがない。中央の漁具に魚がかかたら除々にたぐって左右にかからせ両側のどちらかにかかたらそのままにしておいてもう一つの縄にかからせる。縄の延す長さはスクリーの文字の消えるところから更に10尋以上のばすが波がなければもつと長くのばす。普通30～50尋のばす。

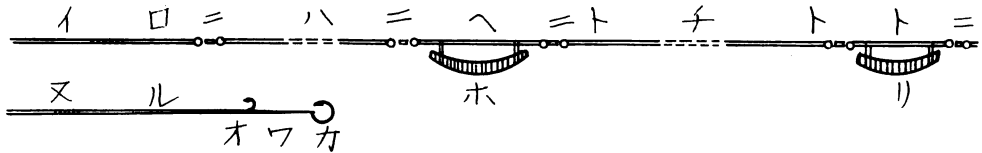


(2) 漁 船：1～3屯 ディーゼル4～20HP、乗組員3～5人

船首部が特に細く船尾部は急にしぼつて下から抄い上げるような造作のもので、スクリー渦が生じにくい構造がよい。

(3) 漁 具

① 中層曳



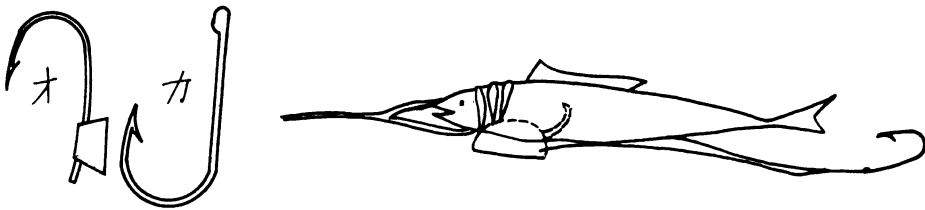
(イ) 手元網・・・綿糸20S20号 50尋

(ロ) " "・・・人造テグス1分3厘柄 30尋2本

(ハ) " "・・・人造テグス1分2厘柄 15尋2本

} イ・ロ・ハの接続部を2号綿糸でかがる。

- (ニ) サルカン・・・真鍮製1.2～1.5寸 樽付き
- (ホ) 中間錘・・・かつをぶし型鉛錘 長さ5寸, 幅1寸, 重さ180匁
- (ヘ) 麻 径1分, 長さ7寸
- (ト) 麻 100匁付2本燃 1寸5分
- (ケ) 人造テグス1分4厘柄, ナイロンテグスならば2分6厘柄 15尋
- (リ) 中間錘・・・鉛60～70匁, 長さ3寸
- (ヌ) 麻 2子燃70匁, サルカンと8字結びにて接続
- (ル) 人造テグス1分1厘柄, ナイロンテグスならば2分4厘柄 15尋
- (ヲ) たいこ錘・・・鉛10匁, 親鉤が付く
- (ワ) 銅線(径2mm)又は麻10匁もの1寸5分
- (カ) 添鉤



装餌・・・サンマ, イカの生餌を使用。親鉤に腹部を刺し, 魚の頭を麻糸でしばり, 孫鉤をそのまま遊ばせておく。

② 表層曳



- (イ) 元網・・・綿糸20S50号2本合せ 70尋
綿糸20S18号2本合せ 70尋
- (ロ) 釣元・・・日本麻径7厘位 2子燃とし2重にして使う 長さ7寸
- (ハ) カナヤマ・・・25～26番ワイヤー2匹, 両端はアイとし綿糸2号, ナイロンテグス2分柄を使うこともある。
- (ニ) 釣鉤・・・丸型2.5～4寸 又は2又鉤2.5～4.7寸
丸型は漁獲が良い時に使い操作に便である。
- (ホ) 擬餌鉤・・・牛, クヂラ, メカジキの骨齒, 骨でつくる。長さ3.2cm, 横2.2cm, 幅0.8cm標準プラスチック製が市販されている。
ワラサ等の小型魚対象の時は1cm位の小さいのを使う。羽毛は鶏毛, 細く長いもの程よい。鉤を5分位先に出す。毛の色は淡紅色が1番良い。白で

もよい。汚れてはだめ。枚数は船の速力が小なら25枚、4節以上なら30~35枚位が良い。羽毛の上に短冊状の白くさらしたフグの皮5~6枚を付ける。これは羽の保護をするものでビニール薄片でもよい。

釣鉤の「しっこ」は極上品の麻に赤木綿を数本まぜて使う

(ㄠ) 張出竹・・・6~7尋の長さの青竹

(4) 漁場：水深、底質に関係なし。沿岸水と沖合海流との境界の内側がよい。

(5) 漁期：10~7月 海況により若干変移あり。

(6) 漁獲高：1日最高35Kg, 平均18Kg内外。

(II) メジ(クロマダコ若年魚) 曳縄漁業

(1) 漁法：張出竹(3尋位)をつかい、曳縄(10~15尋)をひいて操業する。

曇の日がよいが、晴天でも水が不透明だとよい。

メジはスクリーン渦をきらわぬから縄は短くしてもよい。

かかつたら風上に舵を切つて走る。

(2) 漁船：ブリ曳縄と同じ

(3) 漁具

① 縶 糸・・・綿糸15~25号, ナイロンテグスなら2~3分柄2子 長さ25尋

② 釣元・・・40#ワイヤー又はナイロンテグス2分 長さ6尺

③ 擬餌角・・・頭部は牛角又はメカジキの鼻骨でつくる。今はプラスチック製が大部分、大きき2~3cm。鳥毛は淡紅色に染める。春先メジには黑白混りのブルモス毛を2~3本入れる、毛数は20枚 長さ5寸、毛の上部にはフグ皮かビニロン片

鉤は毛の中にかくす。大ききは10#丸型で1本使う。

ブリ用擬似餌



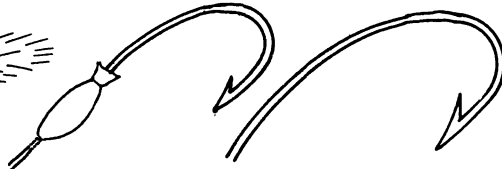
(実物大)



メジ用擬似餌



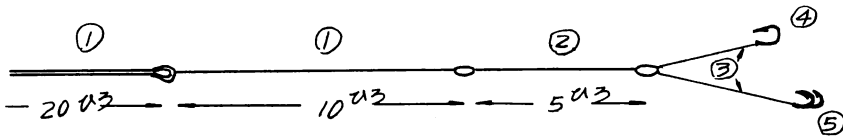
(実物大)



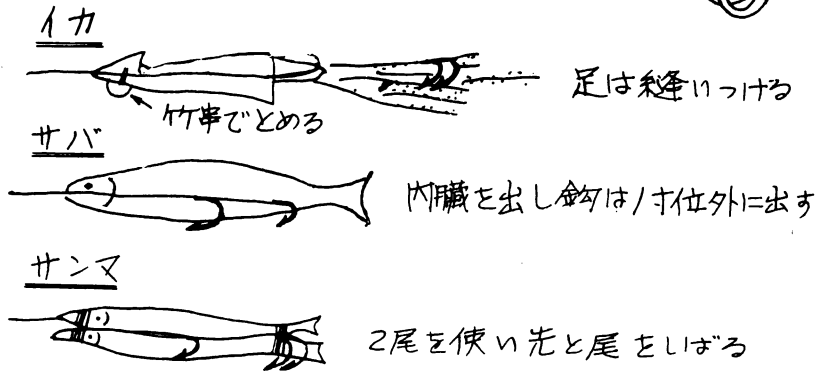
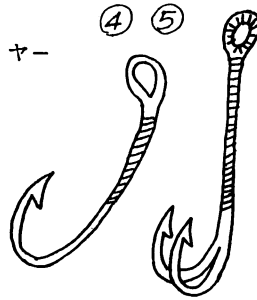
- (4) 漁 場：沿岸水と沖合水との境界の沖側
- (5) 漁 期：10, 11月～4, 5月
- (6) 漁獲高：1日最高漁獲- 10メ, 平均4～5メ

Ⅲ) カジキ曳縄漁業

- (1) 漁 法：多少浪立つ日がよい, 日中は余り漁の期待ができぬ。
 縄は2～3本使い, 中央の一本も張出竹を用う。
 長短2様にのばすが中央のものは左右の邪魔にならぬように30尋以上のばす。
 かかつたら魚の逃げる方向に船をスローで走らせ縄をたぐり鉤で突く。
- (2) 漁 船：3～5屯 10～30HP, 乗組員4～5人
- (3) 漁 具



- ① 曳 縄… 綿糸33子150号又は麻3子撚 20尋 先手に本麻 10尋
- ② 釣 手… 7本撚ワイヤー 5尋
- ③ 丈夫な麻糸に極細銅線をセキ巻く又は7本撚ワイヤー
- ④⑤鉤… 3.5寸長
- ⑥ 張出竹… 真竹5～6尋
- 装餌… イカ, サバ, サンマの生餌を使う。

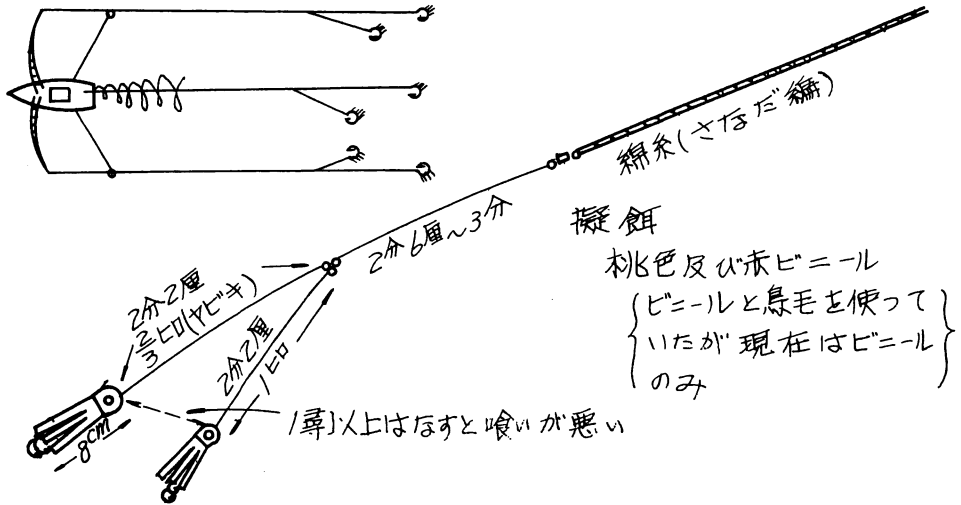


- (4) 漁 場：沖合海流の中で釣れる。沖合の境界なし。
- (5) 漁 期：マカジキ- 12～3月, その他のカジキ(メカ・シロ・クロ)- 7～9月。
- (6) 漁獲高：現在は突棒, 延縄で主に漁獲され余りやらないので詳細不明。

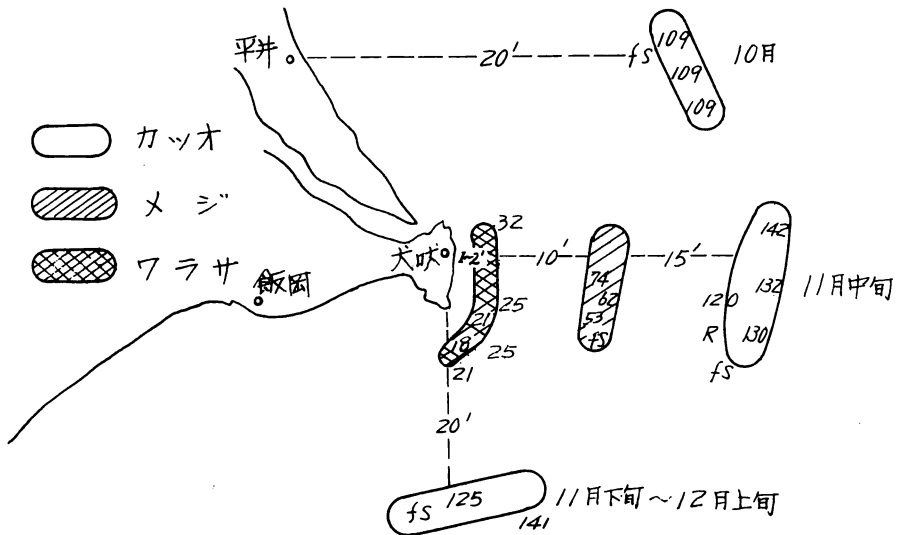
6 千葉県 (千葉県銚子水産事務所)

(I) カツオ, メジ, ワラサ曳縄漁業

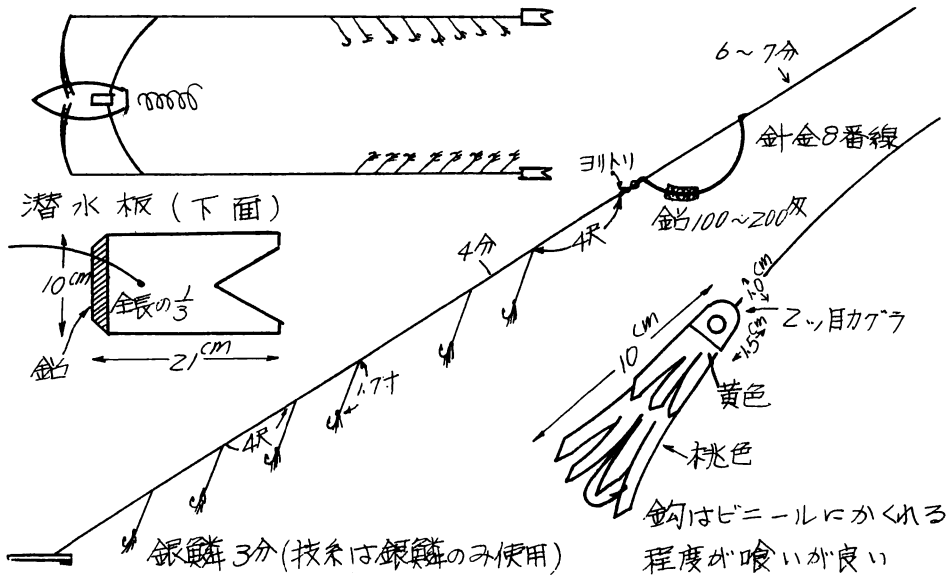
- (1) 漁法: 曳縄の長さは一定しないが一応次の通りである。
 普通3本程度曳く。
- (2) 漁船: 3屯 3HP, 乗組員4名
- (3) 漁具



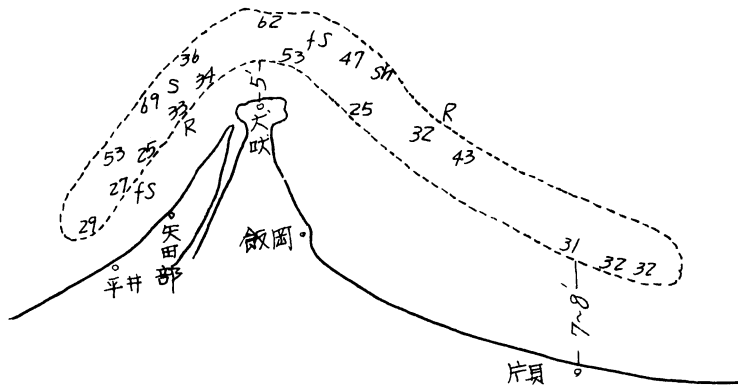
(4) 漁場:



- (5) 漁期：カツオ、メジ 10~12月
 (6) 漁獲高：1航海最高30メ
- (II) プリ曳縄漁業(多鉤釣)
- (1) 漁法：操業する場合「5カラ」積み込み、「2カラ」で曳く、魚が喰つた場合は残りの「2カラ」を使いその間に魚をはずし整備する。
 曳航速度はスローにし竿の曲りを見て更に速度を調節する。
- (2) 漁船：3屯 3HP, 乗組員4名
- (3) 漁具：



(4) 漁場：



- (5) 漁期：初漁期... 2~3月, 盛漁期... 4~5月, 終漁期... 6月
 (6) 漁獲高：1航海当り最高100メ, 平均60メ

7 東京都

ブリ上層ひきなわ漁業

- (1) 漁法：船の両げん（舷）に各1本の竹竿を張り出し、船尾と計3本のひきなわにて操業する。

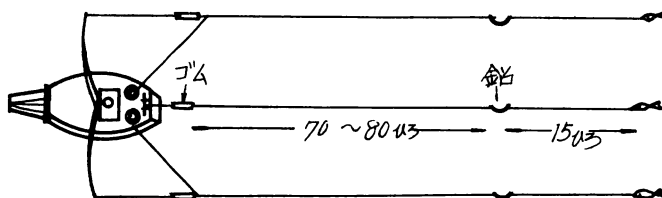
漁期中漁獲されるものは、丸ブリ、ヒラマサが主で、たまにカンパチも釣れることがある。

曇天の場合は1日中喰いが良いが、晴天の日は朝夕の『まずめ』が良い。

潮風には大した関係なく、また潮に向つても下つても喰いに変わりはない。

魚が生餌についてはねている時は、速力を増して魚群の上をひいた方が喰いが良いが、喰いが悪くなつた時は速力を落して深めにひいた方が良い。

普通ひきなわ中は全速力に近いスピードでひく。

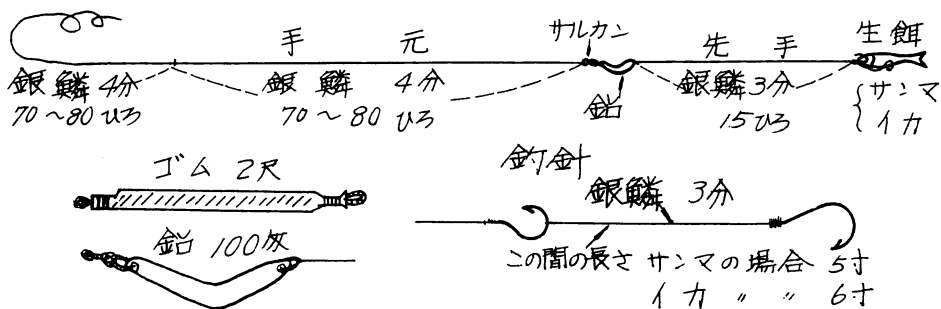


- (2) 漁船：1~3トン 4~15HP, 乗組員2~3人

- (3) 漁具：従来は麻糸のセキヤマ・ワイヤーを使つていたが、最近は手元に4分、先手に3分の銀鱗を使い、全長は160ひろぐらい用意し、70~80ひろは船内に残しておく。

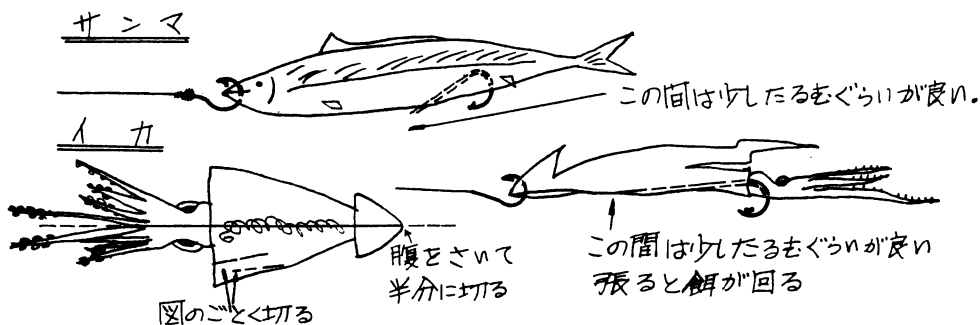
張り出し竹は3~4ひろのもの2本、中間重りは100匁の鉛を使う。

潜水板は使用していない。



餌-サンマ、イカを使用する。これらはなるべく鮮度の良いものを選ぶ。

サンマは1本掛けとし、イカは半分掛けにする。イカを半分掛けにするのは、魚のかかりを良くするためと餌料を経済的に使用するためである。



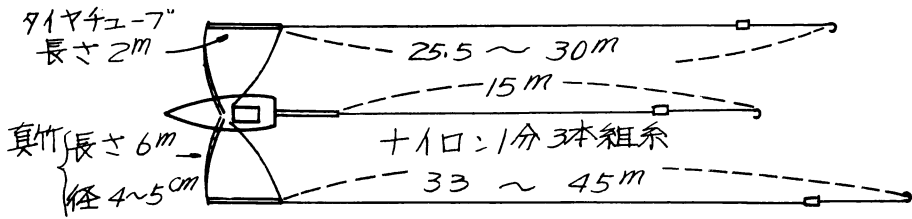
- (4) 漁場：水深，底質，潮流には大した関係なし。
- (5) 漁期：当地のひきなわは南下するサンマ群を追って来遊するブリ，ヒラマサを対象とするため，漁期，漁獲高はサンマの回遊状況（量，経路）により左右され，近年は余り好漁とはいえない。
- 初漁期－10月中旬，盛漁期－11月初旬～12月中旬，終漁期－1月下旬。
- (6) 漁獲高：漁期間最高漁獲－180 Kg 平均－130 Kg
1日最高漁獲－40 Kg 平均－6～9 Kg
- (7) その他参考事項：以上は当地（伊豆七島）で行っている従来からのブリ上層びき漁法であるが，最近では静岡県方面から下層びき漁法を導入し併用して操業している。
- 下層びき漁法については静岡県と同一漁法なので参照されたい。

8 神奈川県

本県のブリ曳縄漁業は，横須賀市東部の東京湾内にて一部行われており，この漁業の専業船はきわめて少なく，漁具も各人各様であるが大差はないので，もつとも一般的なものについて報告する。なお，本県ではカツオ，マグロの曳縄は行っておりません。

(1) 漁法：

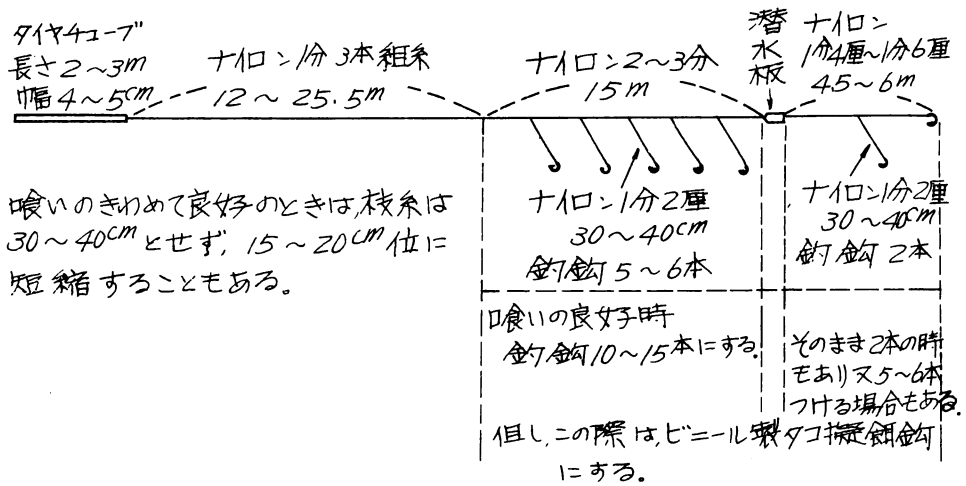
- ① 図のように3本曳き，速力3～4節，長さは船の運航上もつれを防ぐ上から同一にしない。
- ② 漁期になると一本釣漁業者等から大凡の漁況をきいて日の出から日没までの間操業する。最も釣獲の良い時は朝夕，或は上げ潮，下げ潮の変わり時である。又雨天，曇天の際も一般に喰いが良好なようである。
- ③ 魚群をみつけるには鳥や片ロイワシの跳ねに注意する。
- ④ 魚群に遭遇したら群の真上を通らずに，その周囲を引繩する。
- ⑤ 1尾喰いについても直ちにひき上げず，それをおとりに他の魚をひきよせるようにする。



(2) 漁船：1吨 3~6HP, 乗組員1~2人

(3) 漁具：

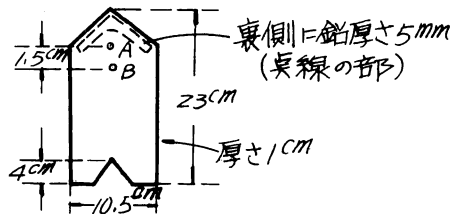
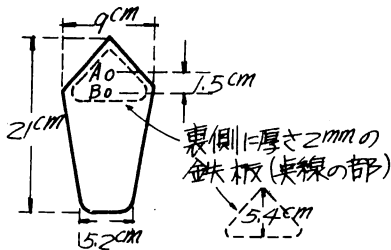
① 曳縄



② 潜水板一次の2種類が用いられている。

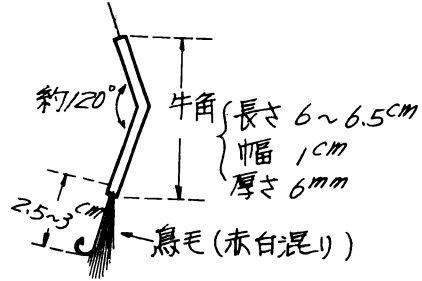
穿孔は2か所あるが、魚の遊泳水深により調節する。A, Bにより潜水板の海中における深さは大体次のようになる。

	A			B
曳縄	45m	10.5~12m	21~22.5m	但し速力3~4節
“	30m	7.5~9m	16.5~18m	タイヤチューブ3mの場合



③ 釣鉤（擬餌）

- i) 牛角は乳白色のものよりいく分黒地塗り
りがよいと思われる。
- ii) 牛角は凡そ120度位の角度をつける
ことにより擬餌の動きを活発になさしめ
良好である。
- iii) 操業中は2日おき位に鳥の毛はとりか
えた方がよい。



- iv) タコ（ビニール製）の擬餌に最近改良されつつあるが、まだこの擬餌は決定的に良
好とはいえない。喰いの良い時はタコの擬餌を用い、喰いの悪い時は鳥の毛が良好の
ようである。

(4) 漁場：水深は7.5～300mの広範用にするが、特に2.5～4.5mのところ喰い
がよい。底質は主として広範用の岩礁地帯。潮流は漁法の項参照。

(5) 漁期：初漁期－7月初旬。盛漁期－8～9月。終漁期－11月下旬

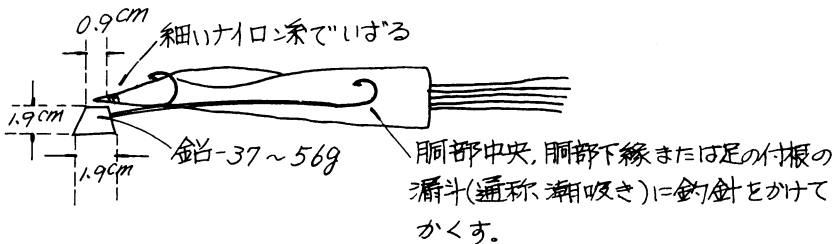
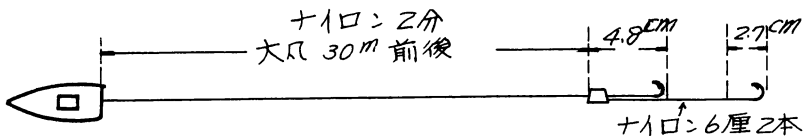
(6) 漁獲高：1日の最高漁獲－45～50kg, 平均5～7kg

全漁期間の最高漁獲船と平均については、専門にやっていない漁業であるため全
漁期の漁獲高を把握するのは困難であるが大凡については次のとおりである。

全漁期最高漁獲－400～500kg, 平均－40～50kg

(7) その他の参考事項：

- ① 水色は濁りを好み、特に時化後は釣獲良好である。
- ② 擬餌を使わずイカの生餌、イカの切身及びドジョウの生餌を用い、釣鉤1本で曳くこ
ともあるが、速力は1～2節の微速にする。
- ③ 擬餌で喰わない時、又は魚群に遭遇しない時、餌を用いて図のような漁具により立縄
釣あるいは曳縄釣を行う。



- 餌-最も良好なものは、中羽イワシの生餌、一般的には小イカを用う。
- 曳縄釣の場合、船の速力1~2節、曳縄1本、ブリは瀬にもつき易いので、この漁具により釣りあげ後3本による曳縄を行う。

9 静岡県〔下田町須崎ブリ曳縄釣研究会〕（漁村・昭和31年9月）

ブリ底曳縄漁業

(1) 漁法：1屯程度の船では1人1組をつかい、1屯以上の船では2～3人で2組をつかう。漁場が近くなり漁群の回遊がありそうだと察知したら、前もつて準備した漁具に餌料のスルメイカ又はサンマ擬餌等適当と思われるものをつけて、漁場についたら船を全速力で航走させ、釣針を投下し、逐次先手、本縄、道縄の順に、からまないように手ぎわよくくり出し、尻手のみを船に止める。この際、道縄の尻はつつきり竿と称する径5cm長さ5m位の竹竿の先端に2号綿糸でしばりつけ魚のかかりをはつきりさせる。大体150m位のばした方がよい。

縄をのばし終れば速力を減節位とし、魚群の上を曳航する。また道縄尻を持ち、餌のおどりをよくするため前後に引張ることもある。投縄の際半速以下にすると重りのために根にかかる恐れがあるので特に注意しなければならない。

重り鉛400～500匁の本縄において減節の速力で30m位の深さを餌が通過すると思はれる。丸ブリは中層、ヒラマサは下層ほどよく漁獲されるので、その魚群、漁場、潮流を考えあわせて中、下層は機械の速度で調整する。

魚がかかれば突切竿の糸は切れるので逸早く尻手もち、からめぬ様に縄を延し、あるいは縮め、手許に引つけ手鉤をもつて船中に取りこみ2組漁具を使用する船でも1つの漁具にかかり、他の漁具にかからぬ時でも1方も直ちに他の漁夫が引きあげねばならない。

漁法は以上の通りであるが、なお注意すべき点を述べると。

- ① 漁業と漁場は密接不可分の関係にあるが、特にこの漁業のように底曳縄においては海底の状況をくわしく知ることが唯一の条件である。
- ② 汐流に注意して、いかなる場合でも汐に向つて操業することが必要である。
- ③ 魚群の餌付状況及び魚の回遊層を速かに察知し、漁具の長短を決定する。
- ④ 天候の変わり目が最も好時期で、特に南西風で雨の前などは絶好である。
- ⑤ 水温は16～17℃位である。
- ⑥ 1日のうちでは早朝と夕刻がよいが、透明度の悪い場合及び汐境においては多量の漁獲をあげることができる。

(2) 漁具：尻手・道縄・本縄・先手から成つており全長で260m使用してつくつてある。

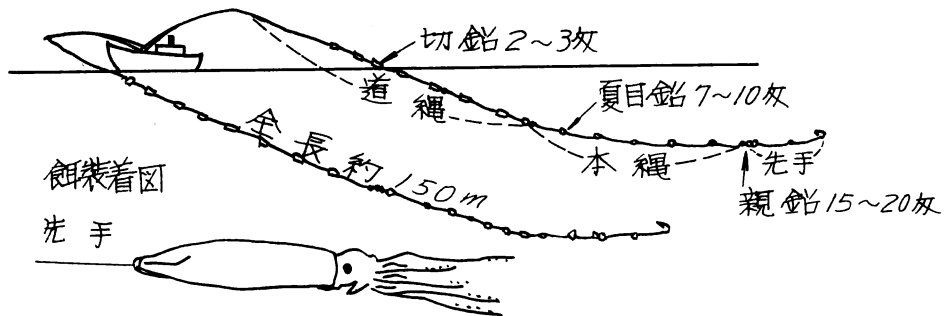
- ① 尻手・・・カツチ染した綿糸150mを用い、尻手と道縄の接手は綿糸を2本燃りにして、尻手及び道縄の方に各々2～3mつけ、その間を0.5号のサルカンで接続する。
- ② 道糸・・・49匁の麻製逆巻縄を45m用い、柿シブでかためる。それに水切また縄の浮き上らぬように2匁から3匁の切鉛を1m間隔に取り付け、道糸の片端をつぼ口に作り片端は大同にしておく。この切鉛の総重量は150～200匁である。

③本糸……6～10分のナイロンテグスを使う。これに7～10匁の夏目鉛を50～100個通し約1m間隔にラミー糸を夏目鉛の長さの倍位をせぎ、その上に夏目鉛を通して金式台の上で鉛を移動しない様にたたき揃えておくのである。本繩の両端には15～20匁の親鉛を取り付け、ラミー糸数本を合せてタマコを作りそれに親鉛を通して固定する。本繩に取り付けるのはすべてタマコで接合する。夏目鉛を固定した両端に出たせぎ糸及びタマコは柿渋でかためる。

本繩の6～10分は魚の大小により夏目鉛の7～10匁及び50～100個は漁場の浅深によつて調整製作し、総重量は500～1貫匁位とする。

本繩50mでは伸縮があるので、それを防ぐため中間を切りサルカンで接合する。

④先手……3～5分のナイロンテグスを15m用い、その中間はタマコを使い3号のサルカンを取り付ける。サルカンは取り付けた餌が回るのを防ぐため、その先端に釣針を取り付けるが、麻のせいなによつてせぎつける。それに餌も取り付けるのであるが、それには釣針付近のテグス1尺位ラミー糸でせぎ、餌のはずれないように結着する。このようにして漁具を作るのであるが、ナイロンテグスの端は結んでは切断しやすいので、すべてラミ糸でせぎとめる。



(3) 漁場：神子元・利島・新島周辺が主漁場である。

(4) 漁期：周年操業するが、特に10月から翌年4月頃までが最も漁獲が多い。

10 和歌山県

(1) 漁具の構造

①大型マグロを目的とするもの。

繩	もとなわ	しやなわ	ちもと	釣鉤	餌料
長	綿糸8~9匁 50m	#27ワイヤ-3×3 (綿糸セキヤマ)4.5m	#27ワイヤ-3×3 2.3m	14~15cm	とびうお さば めじか
短	" " 38m	" " "	" " "	" "	"

※1隻で長・短2本の縄を使用する。

※とびうおの装着法

- i) 釣鉤は餌料を口から入れ鰓を通して釣鉤の先端を胸鰭起部付近に結着する。
- ii) 次に餌料魚の曳行時の回転を防ぐために細い平らなもの(竹棒が可)を横に差し入れワイヤーと口部に結着する。

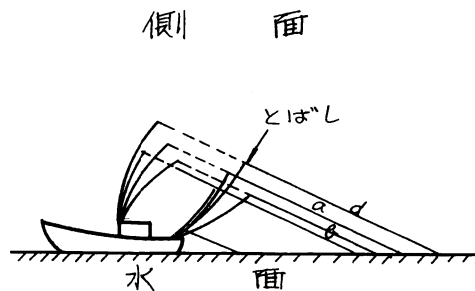
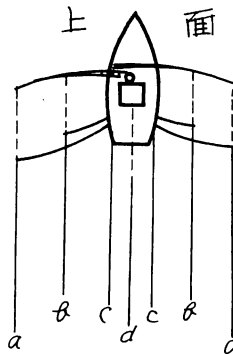
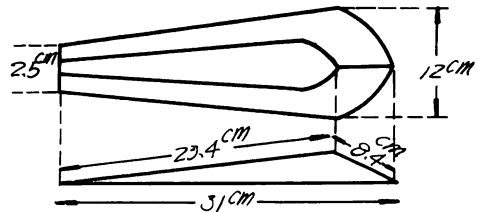


②マグロ幼魚を目的とするもの。

縄数	もとなわ	しやなわ	ちもと	潜行板
a	綿糸20# 60~90本 2.4~2.7m	無	#25~26ワイヤー 2.3m	無
b	綿糸20# 5~6匁 1.8~2.0m	麻芯又はワイヤー 芯にセキマキする	ナイロン3分柄 2.5~3m	使用
c	" "	" "	" "	"
d	綿糸20# 60~90本 3.8~4.1m	無	#25~26ワイヤー 2.3~3m	無

- ※「もとなわ」の長さはとぼしからの長さ
- ※魚の良い時は曳縄の長さを適当に縮める
- ※釣鉤は擬餌鉤で長さ7~8cm

潜行板(桐材)

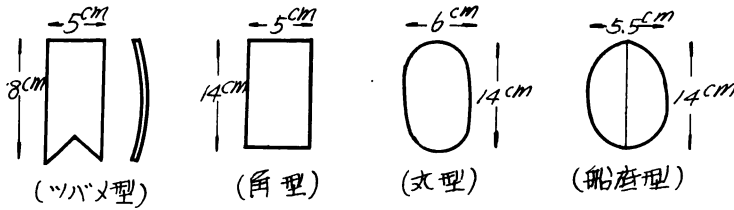


③マルソードを目的とするもの。

もとなわ	ちもと	釣 鉤	潜行板
綿糸20# 27~60本 30~45m	ナイロン7厘~1分 2.3m	ホロ曳2本爪2~3号 4.5cm	使用

※1隻で11~12本を曳く。

潜行板の種類と形状(桐材)



(2) 漁 船：復原性を充分考慮して造られている。

総屯数 2~5屯(3屯前後の大きさの船が多い)

馬力数 焼玉, 電着(5~15馬力)

乗組員 2~3名(最近船型の改良にともなつて1名の船もある)

(3) 漁場, 漁期: 漁期は11月~3月で, 最盛期は1月である。漁場は日の岬以南の海域全般で特に黒潮分派流又は支流の入り込む海域に形成される。漁況によつては高知県沖合(清水市)に出漁する船もある。又大型船は8~12月に九州対馬方面に出漁する。年間操業日数200日(専業船)

(4) 漁獲高: 専業船年間200日操業の場合

最高-80万円, 最低-20万円, 平均-60~40万円

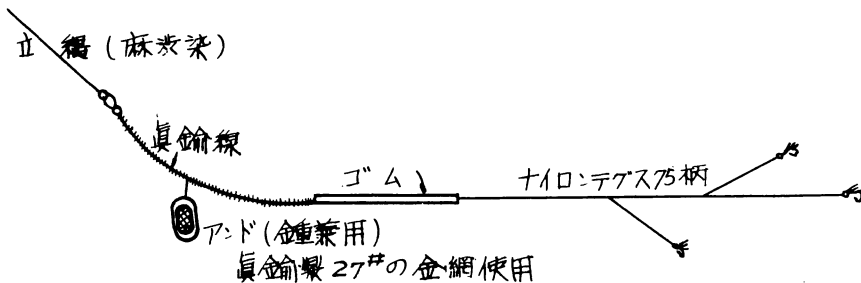
11 高 知 県

(I) メジカ曳縄釣(ソウダカツオ曳縄釣)

(1) 漁法及び漁具

①従来の漁具(昭和25年8月頃迄)

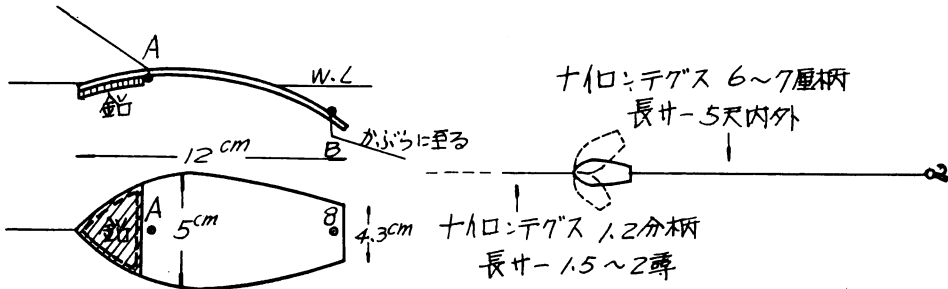
土佐式びし釣く片大枠釣)..... 本漁具は撒餌を使用し擬餌釣で釣獲する。



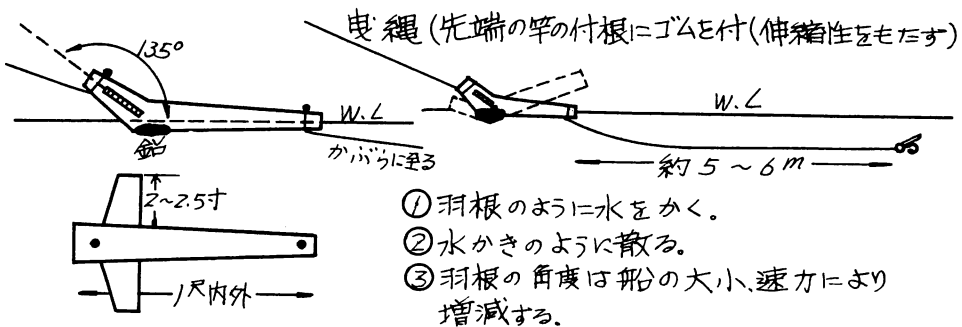
②改良曳縄釣（潜行板式）

- i) 竹竿 2～3尋
- ii) 曳縄 銀鱗テグス1.2分柄 1.5尋～2尋
- iii) 潜行板 船型板又はとばせ

イ) 船型板…桐材を用い板は少し反り身に、下面を少し凹ましてある即ち海中に吸込むようにしてある。図のようにAに糸を付けて引張ると水中に吸込み自然に板の尻を左右に振る、故にこの板に付くカブラ（撒餌釣）は丁度魚のように左右に動き乍ら前進する。魚群が比較的沈んだ場合に使用している。



- ロ) とばせ（飛行機板）…これを造るには3寸4角、長さ約1.5尺内外の木片を用い、その下に1段つくつて水がかかるようにしてある。図の如く長さ約1尺位で羽根が両方に出ており又後方に行くに従つて次第に細くなっている。この漁具を曳くと飛びながら小波に羽根が当り、頭部は前に羽根は水にせがれてとまるので尻が上ることになる、従つてカブラが動くことになる。魚群が比較的浮上した場合やカツオ、ヨコ等を釣獲する場合に使用する。



- iv) かぶら（擬餌釣）…とばせ又は船型板の後につける。普通1寸2分の釣鉤（かぎなし）2本（両先を少し開く）の頭部を鉛で固着し、鉛部中央部にセロハン（発光体）にて包み白色鳥毛約2寸を釣鉤上部の背面に結付し、その上部を長さ約1

寸のウスバハギ(地方名…白はげ)の魚皮(漂白したもの)で包み縛付したものの。魚体が大型化(普通10月以降)すれば釣鉤の大きさは1.3寸~1.4寸とする。船型からカブラまでのナイロンテグスの長さは通常1尋内外で太さ6~7厘柄,トバセから擬餌釣までのテグスの長さは5~6mである。なお好漁時になれば,竹竿,曳縄及びカブラ,テグスとも夫々短くしテグスの全長を竹竿の長さより少し短くして釣上げを迅速にする。曳航速度は通常3~4節,魚のあしによつては5~6節内外の時速で操業する。曳航法は取り舵回りである。

- (2) 漁 船: 小型船 2~5吨級(デ17~30HP)乗組員4~6名
 中型船 8~15吨級(ヤ40~60HP)乗組員8~10名
- (3) 漁 場: 足摺崎SSE15哩~大月町叶崎SSW20哩の範囲
 底質…主として岩盤帯 潮流…上り潮(NNE~NE)の場合が良好。
- (4) 漁 期: 周年であるが纏まつて漁獲されるのは9月~翌年3月で盛漁期は12月~3月の4か月間である。
- (5) 漁獲高: 漁期間最高漁獲-74吨, 平均-30吨
 1日最高漁獲 - 7吨, 平均-0.7吨

(II) カツオ, ヨコ曳縄釣

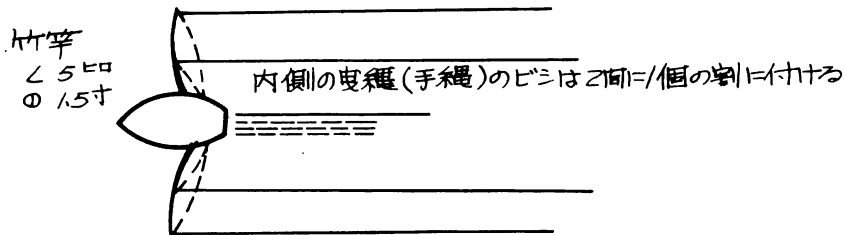
和歌山県式と同じである。

12 福 岡 県

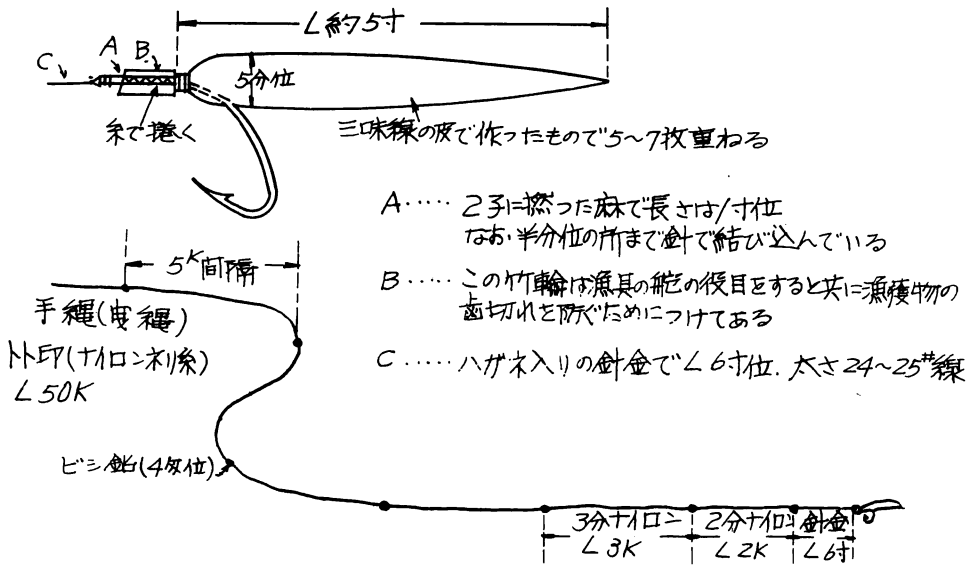
カツオ, 小マグロの場合毛針を使つているようですがこれほど同じと思いますので, 曳網漕網について説明します。

(I) サワラ曳縄(その1) [岩屋漁協]

- (1) 漁 法: 本漁業は擬似鉤であるので大潮の満干の変り目及び日の出, 日の入りの時期を見計らつて曳縄する。この場合の速力は特に注意し1.5哩内外とする。
 なお, 曳縄方法は次の通り。



- (2) 漁 船: 1吨 4HP内外, 乗組員1~2名
- (3) 漁 具:
- (4) 漁 場: 沖合4哩以内
- (5) 漁 期: 7~8月, 10~11月 盛漁期は11月



(6) 魚種：サワラ（魚体1メ内外）

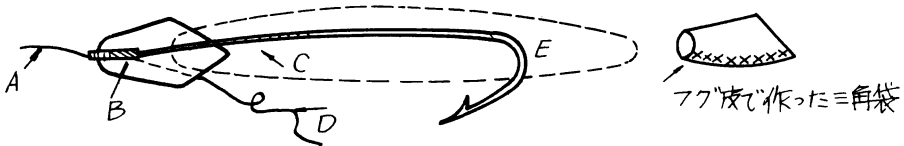
(II) サツラ曳縄（その2）〔岩尾漁協〕

(1) 漁法：操業時刻、潮時は擬似鉤と同じであるが速力のみは半減して曳縄する。

曳縄方法は擬似鉤と同じ。

(2) 漁船：1屯 4HP内外、乗組員1~2名

(3) 漁具：



A... ハガネ入り 24~25#線 L6寸

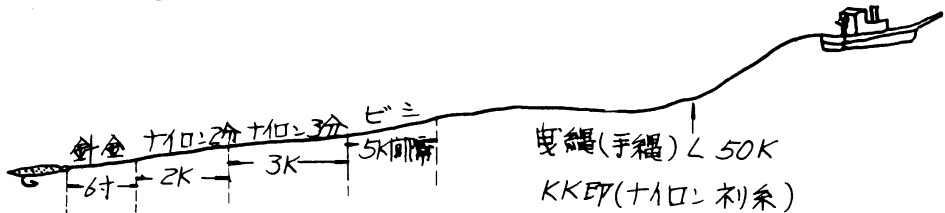
B... 麻2子擦

C... 麻と釣針の腰を銅線で巻く

D... 餌巻き糸

E... 餌料取付方法

{ サンマ
大羽イワシ
(イワシなら半身を)
使用する



(4) 漁場：沖合4裡以内

(5) 漁期：11~2月

(6) 魚種：サワラ、ブリ(魚体1~2メ)、タイ(魚体1~1.2メ)

Ⅲ) ブリ曳縄 [弘漁協]

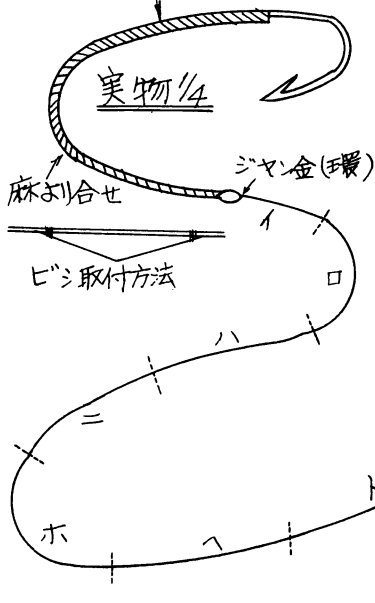
(1) 漁法：餌料はサンマ、イワシ、イカ1尾掛けを使用。曳縄速度は約2裡位で、漁具(道糸)は手で握り時々しゃびきながら喰うと2人操りでゆるめずに1気に釣り込まなければならない。

普通一本曳きであるが盛漁期に入ると竿を出し2本曳きとする。この場合竿の分は少々漁具を短かく2/3位にして使用する。

(2) 漁船：0.5~3屯 2~8HP, 乗組員2~3名

(3) 漁具：曳縄ワイヤーはすべてカタン糸40~50#でせき巻きし(白色)ビシの取付は黒色のカタン糸(40~50#)で取り付ける。

麻の芯はバラバラにして上を綿糸(カタン糸)でせき巻きし、さうにその上を細縄線で巻く。



イ----- ナイロン3分柄 L 2~3㍓

ロ----- ワイヤ-30#x7本 L 4㍓

ハ----- " 35#x6本 L 20㍓36㍓ビシ10'間隔

ニ----- " 32#x6本 L 20㍓36㍓ビシ10'間隔

ホ----- " " " 10'ビシ "

ヘ----- " 31#x6本 L 20㍓3 " "

ト----- " 30#x6本 L 20㍓15㍓ビシ "

チ----- " 29#x6本 L 20㍓3 " "

(4) 漁場：小呂島周辺(ロクレットー)

(5) 漁期：11~1月(12~1月中旬)

(6) 魚種：ブリ

Ⅳ) コチ一本釣 [豊前水試]

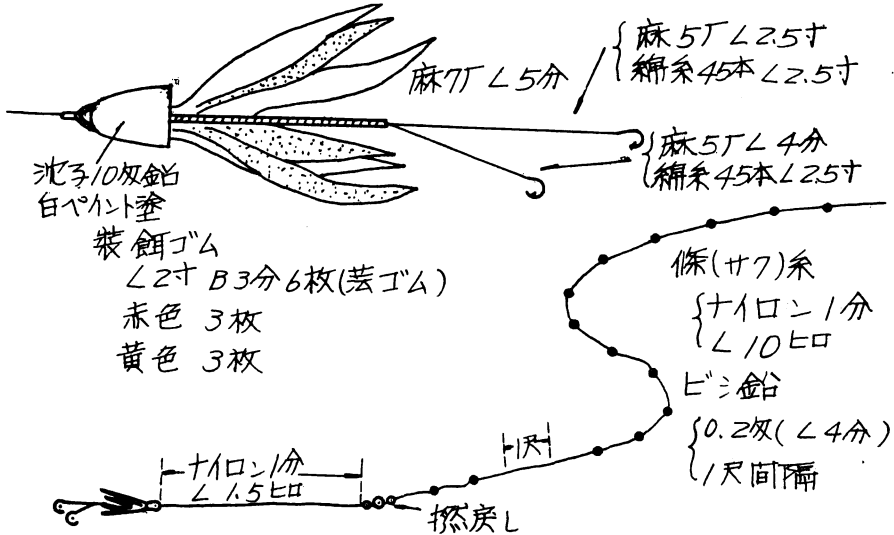
(1) 漁法：漁場に到着すると漁具を海底まで投入し櫓で操船しながら徐々に移動し漁具を上下にししゃびきながら漁獲する。

汐との関係は汐止の時が良いようである。

餌料は生ドジョーを使用する。この装餌は沈子のすぐ下にドジョーのエラより口にかけて6本程度の綿糸で1か所だけつける。普通ドジョーは船内に生かしておき取付の際に殺し、消耗度合によつて適当に取替える。

(2) 漁 船：無動力船，乗組員1～2名

(3) 漁 具：



(4) 漁 場：水深5～6尋（底質泥）

(5) 漁 期：4～10月（5，7，8月盛漁期）

(6) 魚 種：コチ

(V) ヒラメ釣具 【福吉漁協】

(1) 漁 法：早朝から日没まで引汐時に操業するか餌料はキス（キスゴ）の小さい生きたのをを用い、瀬緑（瀬の上）を漕ぎ（曳き）釣する。

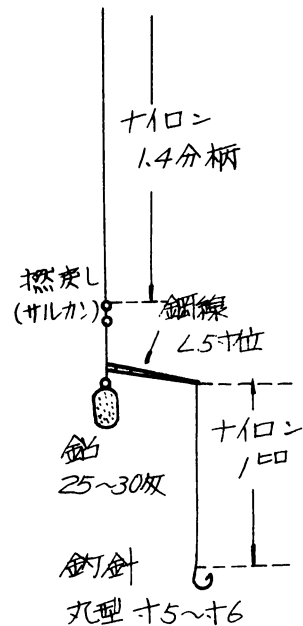
(2) 漁 船：1屯未満の船，乗組員1～2名

(3) 漁 具：図参照

(4) 漁 場：10～15mの瀬緑

(5) 漁 期：7月上旬～10月下旬

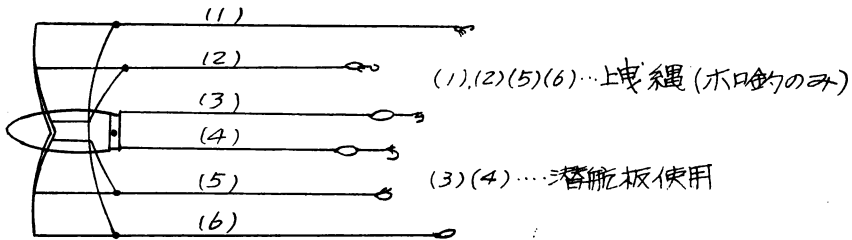
(6) 魚 種：ヒラメ，アジ



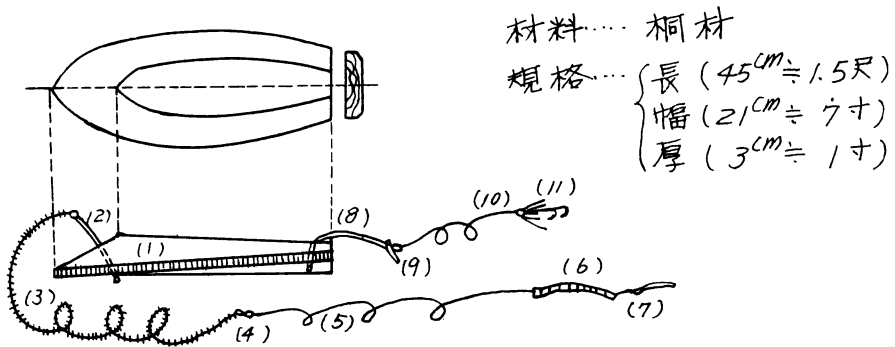
13 大分県

ヨコワ曳縄漁業

- (1) 漁法：この漁法は専業としては行われませんが、サワラ漁期と概ね同時期に当たるため、ヨコワの回遊があり次第兼業して行われる。
- 漁場に向つて航行中上曳縄（1, 2, 5, 6）を投入し、漁場に到着したら少々速力を落し潜航板を調整しながら投入する。船は風波を横にうけて操業する。
- 魚が餌についたら近いものから獲り入れるが、1尾はオトリとして残しその周辺を操業する。操業時刻は概ね朝夕のマズミである。



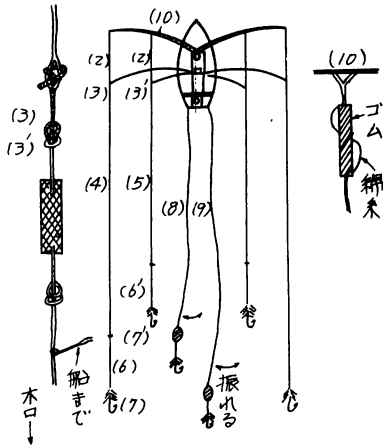
- (2) 漁船：1.5～3吨 6～15HP、乗組員2～3人
- (3) 漁具：ヨコワの200～300匁大のものには、6号ホロが適当で、ホロに使う毛は白毛より赤毛の方が効果がよい。毛の本数は9～10本が適当で、ヨコ釣には白6本赤3～4本位がよい。又毛は余り長くない方が効果がよい。
- ヨコワ、カツオの魚体が500～600匁以上になると、ホロの頭の少し太いものを使用し、毛の数も少し増して15～16位にした方が効果がよい。
- この漁法の特長は潜航板にあるが、その後に取り付けた擬似餌（ホロ）の振れ具合によつて漁獲が大きく左右されるので、この振れ具合に充分注意を払い常に左右均等に振れさすよう心掛けることが大事である。



〔曳縄漁具の構成〕

- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| (1) 伝馬(潜行板)・・・潜航深度(3~5尋) | (7) 船取結端 |
| (2) ナイロンテグス | (8) 綿糸(80本) |
| (3) セキワイヤー・・・4~5尋 | (9) 振れ調整用綿糸 |
| (4) 撚取り(サルカン) | (10) ナイロンテグス(3分) 70~100 ^{cm} |
| (5) 綿糸(300~350本)・・・7尋 | (11) 擬似餌(ホロ)・・・6号前後 |
| (6) 緩衝用ゴム(タイヤチューブ) | |

〔曳縄漁具の配置〕



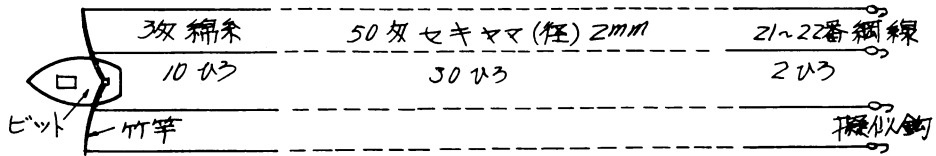
- | |
|------------------------|
| (1) 竹竿・・・(周5~6寸)長さ6尋 |
| (2)(2) チキリ・・・船迄の長さ |
| (3)(3) 重り・・・50~60匁大各1個 |
| (4) セキヤマ・・・30# 15尋 |
| (5) " 30# 12尋 |
| (6)(6) ナイロンテグス3分 2尋 |
| (7)(7) ホロ釣・・・大小各様 |
| (8) 潜行板迄の全長・・・7尋 |
| (9) " " " ... 10尋 |
| (10) 緩衝用補助ゴム・・・(少量) |

- (4) 漁場：豊後水道中南部沿岸(大島, 水ノ子島, 鯛子瀬を結ぶ以南である。)
水深は70~120m, 底質は概ね貝殻混りの砂質で平坦であるが島や瀬の周辺が比較的好漁場のようである。潮流は早い時で3遅程度である。
- (5) 漁期：大体9~11月で, 盛漁期は概ね10月頃である。
- (6) 漁獲高：不明
- (7) その他参考事項：この漁法は最近導入されたばかりで過去の実績も少ないので詳しいことは明らかでない。

14 宮崎県

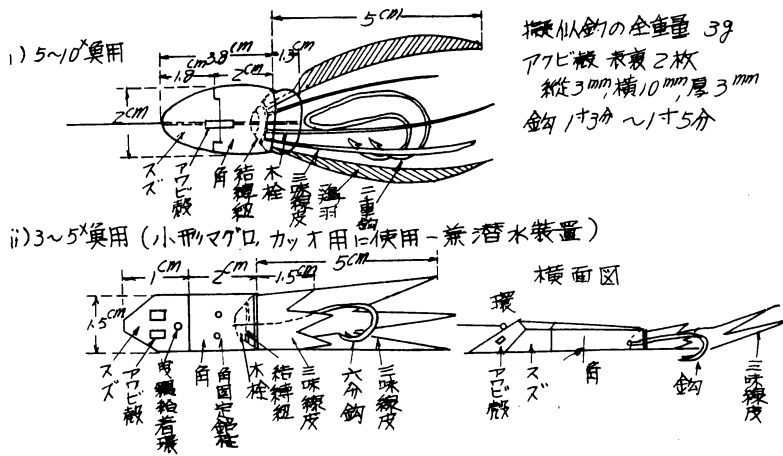
マグロ, カツオ曳縄漁業〔日向市富島地方〕

- (1) 漁法：寸径1間前後の竹竿を艀部ビットに結着して左右舷に張出し, マグロ曳きの場合3本, カツオ曳きの場合10~15本の曳縄を全速にて曳航しながら常にたぐり寄せたり伸したりして魚付を誘う。
- (2) 漁船：2~5吨 6~20HP, 乗組員3~5人

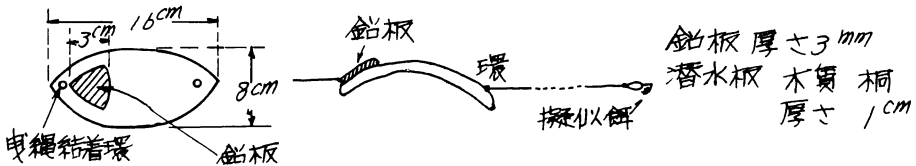


(3) 漁具:

- ① 曳繩 - 3 匁綿糸 10 匁, 50 匁セキヤマ(径 2 mm) 30 匁, 21~22 番鋼線 2 匁
- ② 擬似鉤



③ 潜水板 - 50 匁程度の小カツオ用に使用



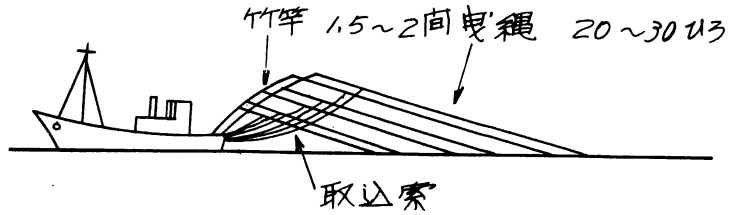
- (4) 漁場: 水深 300 尋線以深の海区, 砂礫質・礁の底質, 潮流は速潮可。
- (5) 漁期: 初漁期 - 3~4月, 盛漁期 - 5~6月, 終漁期 - 7~9月
- (6) 漁獲高: 盛漁期最高漁獲船にて 1日 - 2~5万円程度の水揚。

15 熊本県

(I) ブリ曳繩漁業

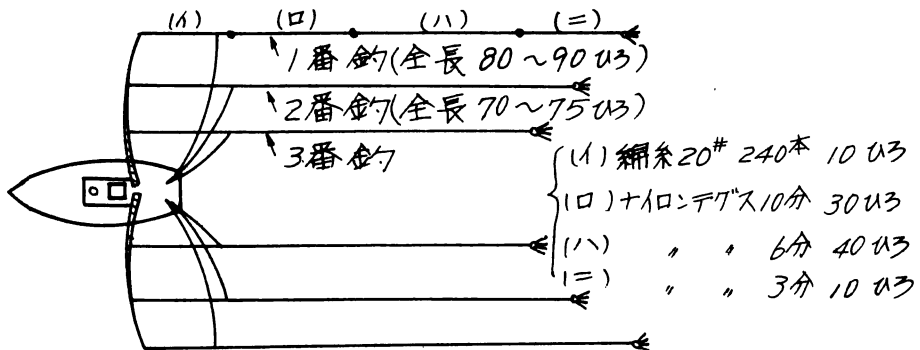
- (1) 漁法: 操業は末明に出港して日没に帰港する。艀の両側へ長さ数尋の竹竿を張り出して, その先端に各 1 繩を結び付ける。又船体からも適当に結び付けた繩を流し全部で 5~6 本曳くことあり。斯して帆走し漁夫 1 名は舵握する又帆船の場

合は帆のシートを片手に握る。他の者は繩に注意して魚が獲れた場合、船をストップして手速く船体に収める。



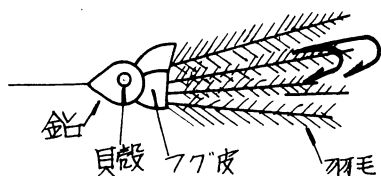
- (2) 漁 船：ブリ曳繩漁船は動力船を主体とするが、その他帆船を用いて操業することあり。 動力船-3~5吨 8~15HP, 乗組員2~6人
和 船-長さ12~20尺, 乗組員2~4人

- (3) 漁 具：下図のごとく道糸は綿糸20#240本合, ナイロンテグス10分柄, 6分柄, 3分柄よりなり, 1番釣で全長90~80㍍とし, 2番釣で全長70~80㍍にする。ピンは釣元の3分柄10㍍の部分を除いて, 1番釣で100匁玉とし, 2番釣で200匁玉で各々道糸5寸置きに付ける。(但し夏期8~11月は対馬方面で操業されるが夏期の操業では30匁玉を用いる。

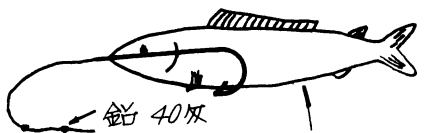


擬餌は鶏の羽毛を用いるものとゴム及びゴム製の魚型等が用いられる。形と色彩は多種あり。

(羽毛擬餌釣)

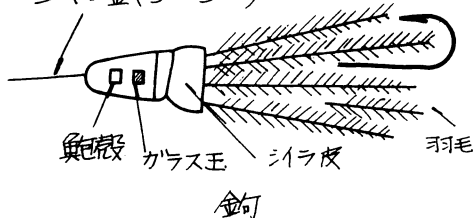


(ゴム製擬餌釣)

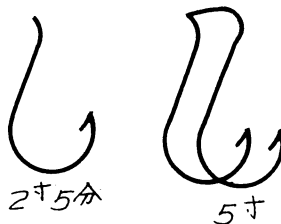


{ ゴム板、厚 1.5mm 長さ 15cm
{ ゴムは青又は紺色等種々

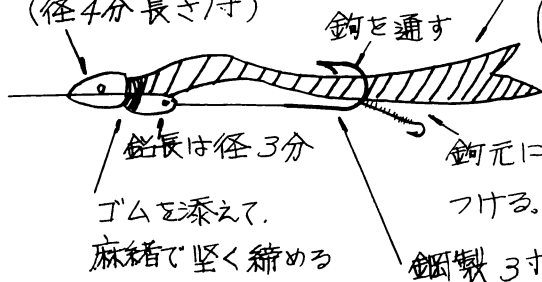
シヤン金(3~5尺)



金鉤



紡錘型鉛の頭と用う
(径4分長さ1寸)



真型青色ゴム、ホロ長さ7寸
(幾分余裕を与え、たるむ)
ようにする

鉛長は径3分
ゴムを添えて、
麻緒で強く締める

鉤元は麻緒を用い、3寸金針に結び
つける。鋼製2寸針を用う

鋼製3寸

- (4) 漁場：天草西海岸沖合（苓北町富岡・天草町大江・同高浜・同下田・河浦町崎津・牛深市・魚貫町）及び五島列島・男女群島・南西諸島にまで進出することあり。
- (5) 漁期：11月～3月，盛漁期12月～2月
- (6) 漁獲高：例年とも殆んどが県外において基地を置き操業しており本県に帰港水揚げ等は稀れなので不明。
- (7) その他参考事項：各々の漁場共に沿岸より10哩内にて操業され水深は30～90mが主なる漁場で11～1月の水温は20.0～15.5℃内外，大潮時で風波少々高き日が釣つきが良いといわれる。大型船よりは2屯前後の小型船が餌付良好と云われ豊漁の時は1日1隻100貫を漁獲したものがあがるが，不漁の年は僅少である。

(II) サワラ曳縄漁業

(1) 漁法：約6ノットの速力で曳航する。この場合下記の曳繩(イ)のホロの深度が7～8尋、(ロ)で15尋程度と推定され、従来の同一浮度曳きの場合に比べて成績良好である。又魚群の存在を認めたとき、この真上を横切るとは極力避け魚群の周囲を包むごとく航走する方が効果的で餌付が永く続くことが知られている。

(2) 漁船：ブリ曳繩漁船と同様に動力船を主体に行われている。
3～5屯 8～15HP, 乗組員2～6人

(3) 漁具：

① 曳繩—綿糸20#240本合せ7尋を用いる。

② 重り—本繩の末端に鉛製重り1斤を付ける。

③ 釣元—釣元の構成上(I)(II)(III)の型式に区分する。

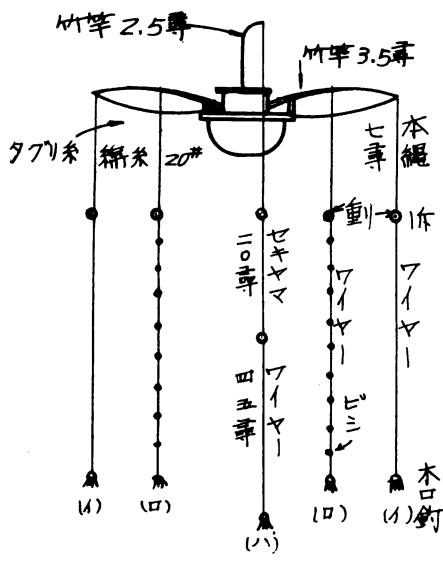
(イ) … 30#7本撚ワイヤー45尋を用いる。

(ロ) … 30#7本撚ワイヤー45尋の上にホロ釣の方より2尋間隔に10匁の鉛ビシを10個付ける。

(ハ) … 本繩とワイヤーの間にセキヤマ20尋を連結する。ワイヤーは同じく45尋を用いビシを付けない。

④ 釣鉤—2本鉤約3寸

⑤ ホロ—鶏の羽毛約20～25本位巻き、その上にシイラ又はフグの皮を上巻きする。



(4) 漁場：鹿児島県横当島が最も優れ、その他臥蛇、悪石島等これに次ぐが、他は概して振わない。

(5) 漁期：7～9月

(6) 漁獲高：不明

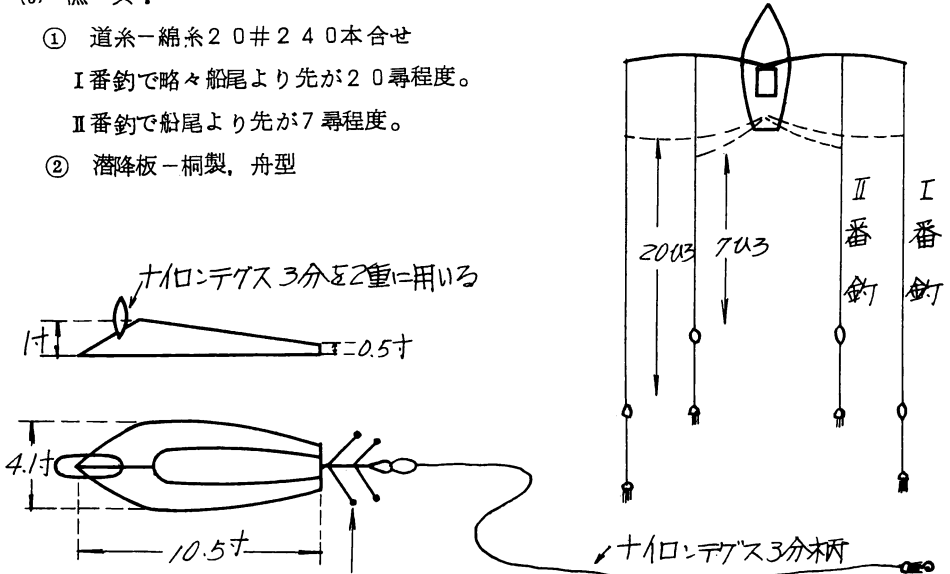
Ⅲ シビ曳縄漁業

(1) 漁法：4～5 吨の船にて全速力（6ノット）をもつて曳航する。漁具は船の大きさによつて4本用いることもあり又2本用いることもある。

(2) 漁船：他の曳縄船と同様であり省略す。

(3) 漁具：

- ① 道糸—綿糸20#240本合せ
I 番釣で略々船尾より先が20尋程度。
II 番釣で船尾より先が7尋程度。
- ② 潜降板—桐製，舟型



綿糸然糸の先端を王状に結んだ枝
 これは潜降板の舵の作用をするもので、潜降板が左右に振れない時はよく、又水面に飛び上つて沈まない時は多くして調子をとる。

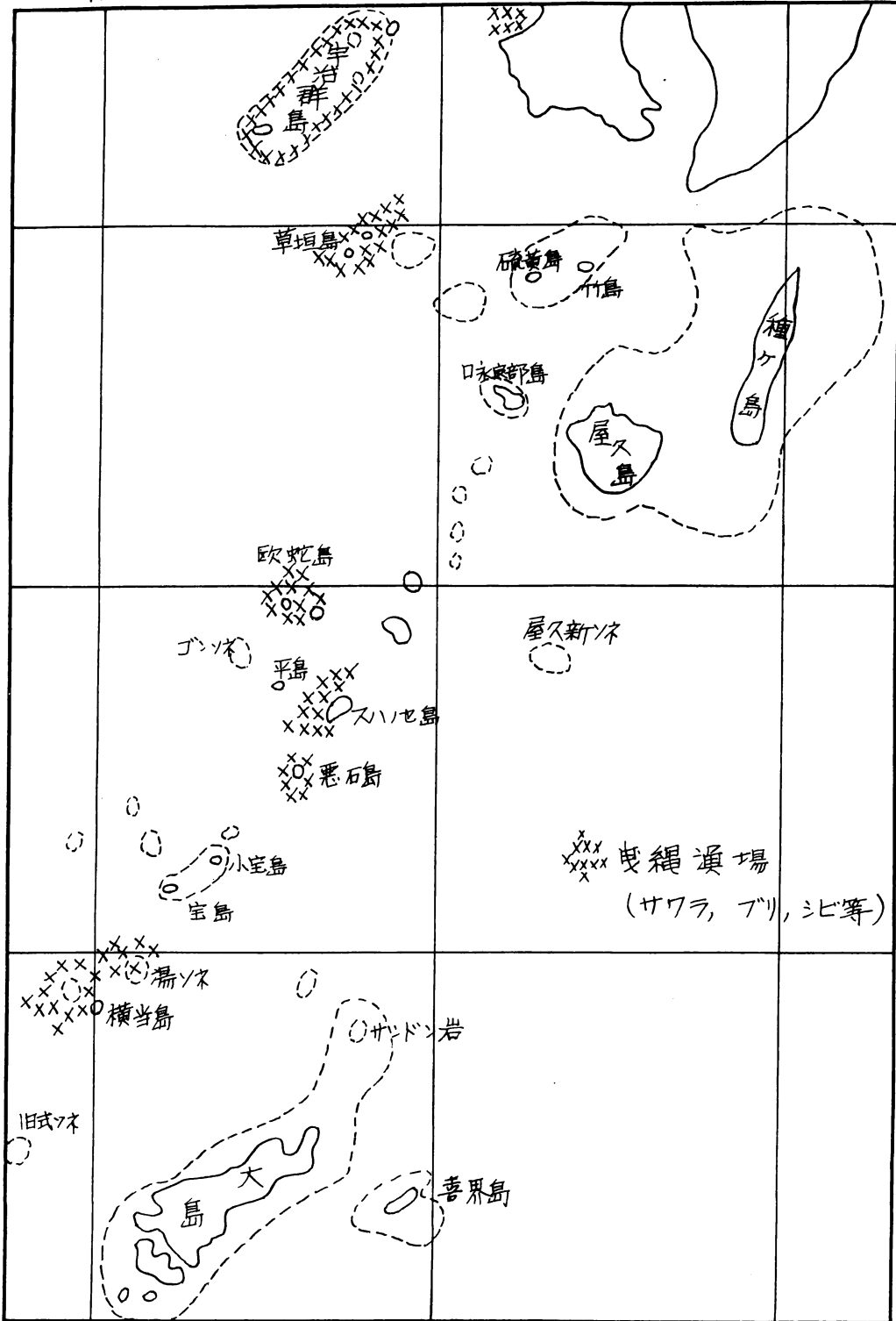
(4) 漁場：西南諸島及び五島方面

(5) 漁期：12月初めより翌年4月まで

(6) 漁獲高：不明

(7) その他参考事項：なし

南西諸島海域における曳縄漁場図



16 鳥取県

ブリ曳縄釣

(1) 漁法：境港で行われていりブリ曳縄釣漁法には底曳縄釣と浮曳縄釣とあり一般に春漁期には擬餌鉤を使用し浮曳縄釣と底曳縄釣を操業し、秋漁期には生餌を使用して底曳縄釣の操業を行つている。

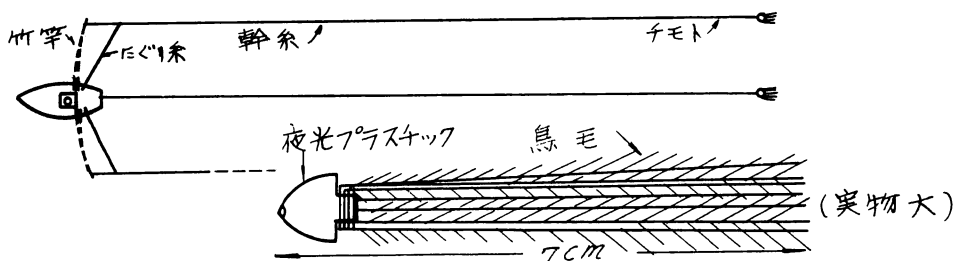
- ① 浮曳縄釣—操業方法は漁場へ到着したならば全速のまま漁具を投入し、そのまま漁具を曳行しながら漁場（魚礁の付近）を円型、又はじくざくに航走しながら操業を行う。出入港は一般に日出前に出漁し日没後帰港する。
- ② 底曳縄釣—操業方法は曳行速度を中スロー（3節前後）とするが、漁具を魚群のいる水深に保つていなくてはならないため魚群の深さ、潮流の速さ等によつて速度を増減させなければならない。その他は浮曳縄釣と同様である。

(2) 漁船：1.5～2 吨 4～8 HP, 乗組員1～2 名

(3) 漁具：

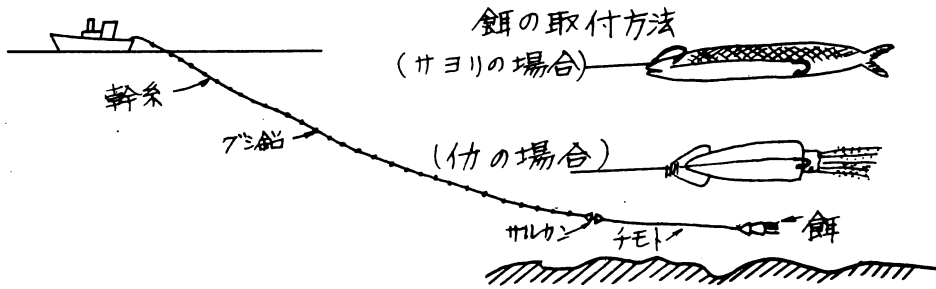
① 浮曳縄釣具構造

- i) 幹糸—ナイロン6～3分 80～100m(ナイロンの太さは魚体の大小によつて使い分ける)
- ii) チモト—ナイロン6厘～2分 7～8m (" ")
- iii) 擬餌鉤—図参照
- iv) 竹竿—長さ約3間



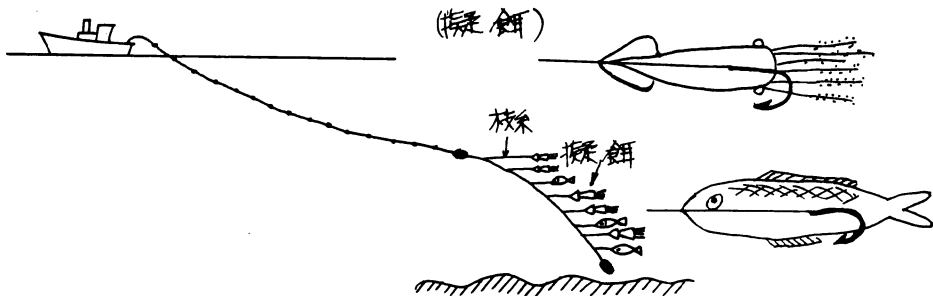
② 底曳縄釣具構造（生餌によるもの）

- i) 幹糸—ナイロン7分柄を手本から35尋、次に5分柄を35尋、その次に3分柄を35尋使用する。
- ii) グミ鉛—幹糸の7分柄、5分柄は共に10尋に150匁の鉛を5寸間隔に分配して取り付ける3分柄には、10尋に70匁の鉛を5寸間隔に分配して取付ける。
- iii) チモト—ナイロン1～2分柄のものを5～10尋とする。
(ナイロンの太さ長さは魚体の大小によつて異なる)
- iv) 生餌を用いイカ、サヨリ等を使用する。



③ 底曳縄釣(擬餌によるもの)

- i) 幹糸及びグミ鉛-生餌の漁具とすべて同じ。
- ii) チモト-ナイロン3分を使用し長さは枝糸の多少によつてきめる。
- iii) 枝糸-ナイロン1.2~2.4分を0.5~2.5尺の長さとし、これを1~2尋の間隔で15~20本取り付ける。
- iv) 重り-200~300 匁のものを使用する。
- v) 擬餌鉤-ビニール製で下図のごときものである。



- (4) 漁 場：境港では美保沖合に点在する。シゲグリ，黒瀬，沖の御前島（シウラグリ）の周辺を主な漁場として漁獲の少ない場合には御来屋沖の魚礁に出漁する事もある
潮流はS Eの潮が多く速い方が好漁のようである。
- (5) 漁 期：漁期は春漁期（3~5月）と秋漁期（10~12月）に大別され年によつて盛漁期の変動がはげしい。
- (6) 漁獲高：全漁期間の最高漁獲高は1日でハマチ（200~500匁）で40尾，マルゴ（800~1.5メ）で40尾程度である。平均漁獲高はハマチで5~10尾，マルゴ3~8尾の漁獲である。

年によつて漁獲高の変動がはげしい。

17 兵庫 県

ヨコワ(仔マグロ)曳縄釣

(1) 漁法：出漁中魚群に出合つた際は、必ず舟の位置(山目)を確めて置くこと。

魚が舟の前側の釣具にかかつたときは、舵を取舵にとり舟を回し、後側にかかつたときは、面舵に回して後続の魚の喰いやすいようにする。この際後続の魚が他へ逃亡しないよう一尾は舟に取入れず、釣れたまま曳いていること。

同一場所で喰が止んで他へ移動しても、前場所の魚は40分位でその付近に集つているから、再び回航すれば釣れる。

釣糸は、振付糸は7尋位、上曳は15尋位とし、釣れだした場合は短くすることが必要である。魚は音響に寄つて舟のトモにきているからである。

魚は早朝の薄暮時には海面近くに浮上するので、日中より大変釣りやすい。

試験の結果、擬似餌の使用に大差のあることが判明した。早朝薄暮には良く光る擬似餌(クローム、ニッケル、貝、象牙)等がよく、曇天の際も同様である。しかし好天の中等は光るものは香ばしくなく、振り板も潜航させねばならぬ。

鶏毛にしても、早朝と日中には差があり、そこに工夫がある。荒天で波の高いときは振板付より上曳釣の方が成績が良く、波の静かなときは反対に上曳釣より振板付のほうが成績がよい。

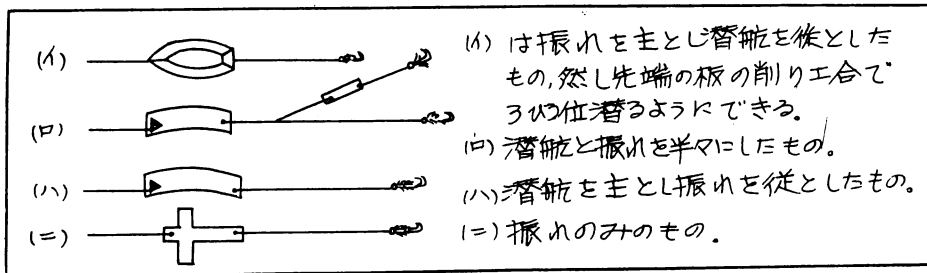
上曳釣に使用するケンケンの頭部は、直径3分6厘がよく、大型の魚の場合には5分のものを使用しているところもある。振板に使用するものは小型の2分4厘がよい。餌付(イワシ)でケンケンシヤビキ等で喰わないとき、ビニール製イワシを使用して多数漁獲したことがある。又、ビニール製イカを使用してサワラ尾を漁獲したこともある。

(2) 漁船：1.5～4吨 電着5～8HP、ディーゼル17～30HP(イカ、サバ一本釣漁船)
乗組員1～2人)

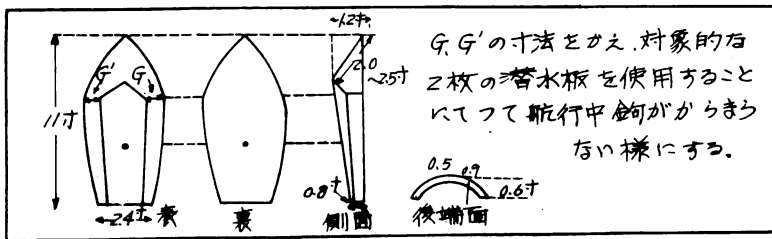
(3) 漁具

- ① 釣糸-振付糸…従来は綿糸又は、巻具を使用していたが、今ではナイロン8分柄を使用している。普通7尋位、上曳の場合15尋位。
みち糸…潜航板より擬似餌までの長さ1.3mが最も良い。
- ② 釣鉤-従来は丸型のものであつたが、これは釣れた魚が時々逃げるが、弧型はほとんど逃げなく漁獲できるので今ではほとんど弧型を使用している。
- ③ 擬似餌-多種あるが、いずれも使用法を考えて使用することが必要である。(漁法の項参照)
- ④ 潜航板-この漁業はシイラ漬漁業と同時期になるため、漬木が多く従つてシイラ、雑

魚が海面近くにいるため、ヨコワも海面近くにいると考えられるので振れを主とした(イ)の型が成績がよい。(兵庫県浜坂町諸番地方)



桐材を用い、野球のバットやスキーからひんとを得て、合せ板にしてクルイを少くしている。塗料は化学ウルツが最良である。(兵庫県城崎郡香住町柴山地方)



- (4) 漁場：水深は初期は大体沖合で200~250m、盛期120~150m、終期60~80m
 底質-砂泥。潮流は日本海にはみるべき潮流なし。
 海流は対馬暖流(0.5ノット)
- (5) 漁期：年によつて多少の変化はあるが大体下記の通り
 初漁期-8月下旬~9月上旬にかけて(9月中旬からの年もあつた)
 盛漁期-9月中旬~10月下旬 "
 終漁期-11月中旬~11月下旬 "(12月に入つても釣れたこともある)
- (6) 漁獲高：漁期間最高漁獲-1,350本
 1日最高漁獲-170本 平均60本前後(1本4~6Kg)
- (7) その他参考事項：年々漁船が大型化され速力が増加しているので、小型の潜行板へと改良される傾向にあるが(抵抗の関係)、近年ヨコワの回遊が皆無の状態、この漁業の改良研究はされていない。

18 京都府

ブリ曳縄釣

- (1) 漁法：下図参照
 (2) 漁船：1屯前後 4~5HP, 乗組員1~2名

(3) 漁具：主具—麻糸30号…80尋，絹糸16号…40尋（グミ鉛付）

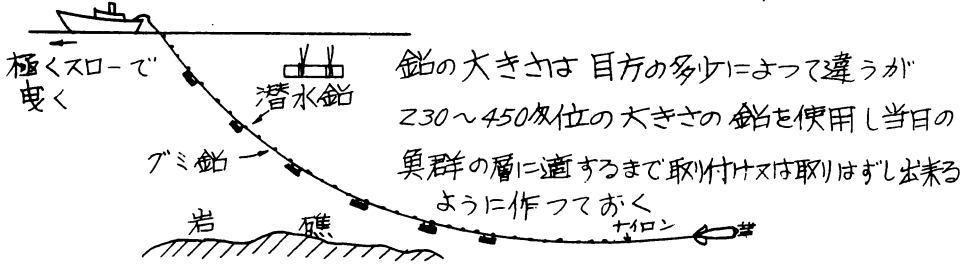
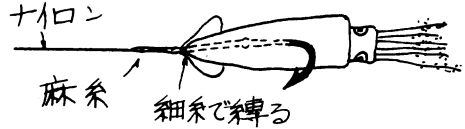
ナイロン—1分4厘……5～6尋

釣鉤—2寸～2.5寸丸型

潜水装置—鉛

餌—イカ

餌の付け方



(4) 漁場：府下沿岸の礁上，水深30～70尋，潮流の弱い時に使用する。

(5) 漁期：3～5月，9～11月

(6) 漁獲高：タグリ釣と並用しているため分類は出来にくい。

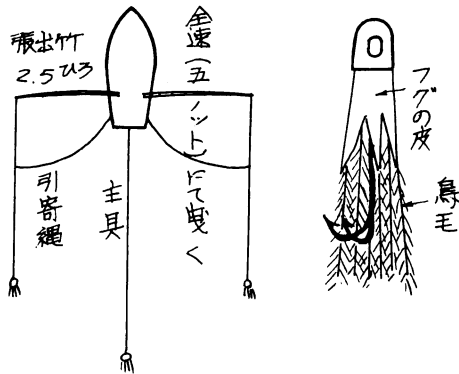
(7) その他：本府のブリ釣はタグリ釣，立縄等を主体として操業し曳縄を用いる時は潮流のない時又は弱い時に使用している。

シビ子（マクロ）曳縄釣

(1) 漁法：右図参照

(2) 漁船：1屯前後 4～5HP，乗組員1～2名

(3) 漁具：主具—綿糸30#90本…12m
ナイロン—2分柄…2～3尋
疑餌鉤



(4) 漁場：府下沿岸—帯

(5) 漁期：9月中旬～11月下旬

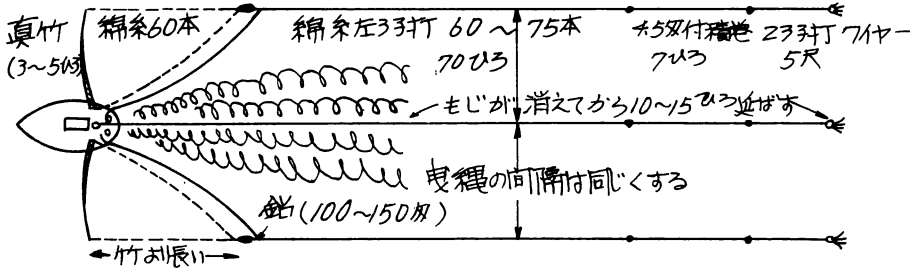
(6) 漁獲高：不明

(7) その他：府下のカツオ曳縄釣はシビ子（マクロ）の回遊状況によつて左右（回遊して来る年としない年）され主として漁場の往復に行う程度で漁獲高は不明である。

19 石川県

(I) フリ曳縄漁業

(1) 漁法, 漁具: 3~10 吨級漁船による曳航速度 4~6 漣

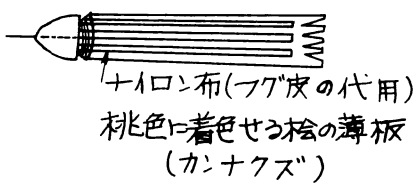


フリ釣用ホロの種類

(象牙, 牛角, 鯨骨, 鹿角, 白蝶貝, 合成樹脂, ナマリ, 女提木, ロウセキ)

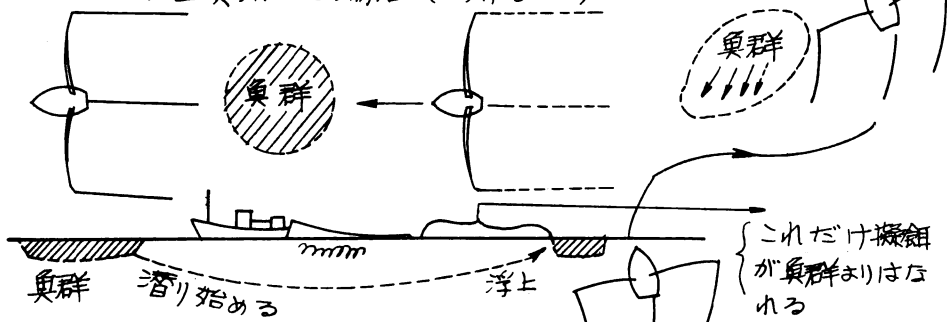


化毛を使用する場合

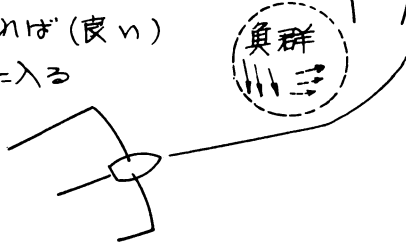


フリ曳縄釣における船の選航法

① 魚群を真直交切った場合 (1) けな



② 魚群を壁けて通れば (良い)
 鉤が魚群の中に入る

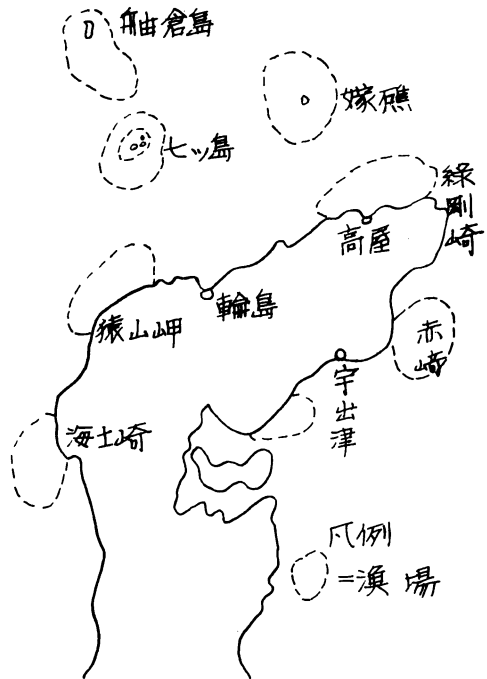


(2) 漁船：3～10 吨，乗組員4～5人

(3) 漁場：舢倉島，嫁礁周辺で好漁場が形成され七ツ島，北西岸各崎岬等，飯田湾赤崎沖等にも漁場が成立する。前者の漁場は回遊して来る魚群が停滞型態をとるため漁期が非常に長くなり連日活況を持続し比較的安定性の強い有望な漁場となるが，後者の漁場では来遊する魚群が2～3日で移動するため漁場価値としては甚だ不安定である。

(4) 漁期：初漁期－4月下旬
盛漁期－6月下旬～7月下旬
終漁期－10月下旬

(5) 魚体：初漁期魚体は比較的大型（1～2メ）魚が多いが魚体は不揃であり，盛漁期に入るに従い中型（700～800匁）魚の来遊が多くなり活況を呈し，終漁期ヒラマサと混合すると小型魚が来遊する。



(6) その他参考事項

- ① 特長－(I) 漁具費が低廉である。
 - (II) 漁具資材が少なく漁具の手入が簡単であり腐敗が少ない。
 - (III) 擬餌鉤であるから餌料入手の難がなく漁況に応じて直ちに操業できる。
 - (IV) 操業が容易であるから他の漁業の間隙に応じてすみやかに操業できる。
 - (V) 他の漁業との併用が容易である。
- ② 欠点－(I) 馬力の小さな船では全速曳行するから燃料の消費量が多くなる。

(II) シビ仔（メジ）曳縄釣

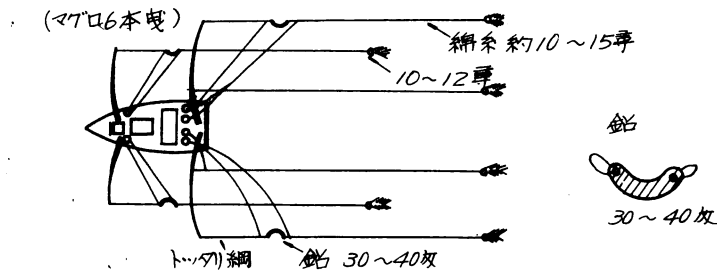
- (1) 漁法：操業はブリ曳縄と同じように船の舷側から竹を張り出して曳行する。ブリは3本より曳く事ができないが，マグロの曳縄は曳縄が短くて済むので同時に6本曳く事ができる。即ち竹の立て行付船尾に2本，胴の間に長さ2尋半のカツオ竹を2本出して仕掛ける。
- ともの張出し竹は，ブリその他の魚と併用することができる。
- 風に対する竹の操作はブリ曳縄の場合と同じで風上に面した舷側は風のために上方に傾き，風裏の舷は反対に下に傾く。この為風裏の舷の竹の先端は海中に突込

み風上の竹が天高くあがつて曳繩が風にあおられて風下の鉤には喰付くが、風上は喰付がない。この場合は竹の元を上下することによつて調節することで効果をあげる。張り出し竹は船の進行につれて適度にシナウことにより擬餌は生きた魚が泳いでいる様に見えるため喰付くのであるが曳繩が短いので風に飛ばされる率が多いから特に注意しなければならない。

船の速度は成可く早い方がよいが、そうかといつてそれ程全速で走る必要もないシビ仔はブリと違つてスクリュウのモジを嫌うことが全然ないので曳繩(ヤナ)の延し方も8~12尋位まで延せば充分である。従つて魚が喰付いてそれをたぐる時もブリの様に力を加減する必要はなく多少の手心を加えれば思いきつたぐつても上顎又は下顎に掛ることが多いのでめつたに逃すことはない。

この魚は群をなし潮上と風上に向つて遊泳するので、この点を良く考え左右の張り出し竹に喰つた場合はそのまま獲らずにおき真中の2本と胴の間の2本の手でさばいているのを活躍させて漁獲をあげるべきである。

船の運航は千鳥運航であるが、喰いの立つている時は直線コースで思いきり航行した方がよい。唯この場合短いはいえヤナを6本曳くので特に胴の間に喰つた場合喰付いた反対側に舵を多少切るようにすれば良い。船尾の場合も両舷の真中の部分に喰付いた時は真中の分は少々上方に持ち上げてヤナをかわしてやるようにしなければならない。この魚は鉤にかかつて引き上げると血を吹き出すので、血を海に流さないようにすることが肝要である。

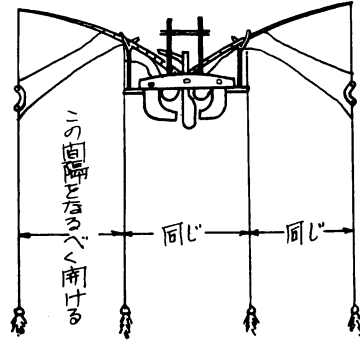


- (2) 漁具：シビ仔の魚体の大きさによつて漁具の造り方も多少違う。角はブリ角のように真白又は少し赤味を帯びた角よりも牛の角か鉛角の2つ目又は4つ目の方が喰いが良い様である。毛もブリと違つてそれ程吟味する必要がなく、キジ毛を20枚前後捲いて造るが、最近ブリと同様の淡紅色の毛を用い、それにブリモスの毛を(白黒混り)2~3本入れて用いる。この魚はブリと異り底から角の頭を目がけて喰付くので鉤はなるべく短かく毛の長さの半分位より心持ち中へ込れて造るのが最も良い。毛は非常にいたみ易いのでブリの擬餌に比べてフグの皮も少し幅を広く付けた方がよい。釣元ワイヤーもあまり長くするより1尋1尺位の方がよい。

鉤は2本鉤より1本鉤の方がよくが
つちり引掛つて口が堅いのでめつた
に逃すことはない。

(竹の立方及び曳糸繩の出し方)

- (3) 秘 決：シビ仔釣りの秘決は天候をよく見
きわめて雨をもつた様な日和で多少
風のある日の方が保証つき良く喰う
日である。この様な日は船の運航法
も風が強いから無理な航法もできな
いが、最初に2～3尾一度に喰えば
後に引返さぬ様に思い切つて風上に
1時間でも2時間でも走つて見るこ
とであり、その時後から後から喰付く様ならば、左右の張り出し竹の魚は喰付いたままにして置きとつてはいけ
ない。この喰付いた魚は結局オトリになる訳であ
つて魚が曳きずられて死んでしまうまで放つておいた方が他の道具に喰付きが非
常によい。トモ番は他の道具を力強く思い切りサバクので、サバケば必ずこの魚
は勢い良く喰付くから喰付いた瞬間は決して急激にたぐつてはいけ
ない。急にた
ぐれば必ず鉤元から切られてしまうから喰付いた瞬間はヤナをつかんだ手をス
プリングの様に一瞬間加減して魚の頭が船の方へ向いた時横にそれる余裕を与えず
思い切りたぐり込むのである。



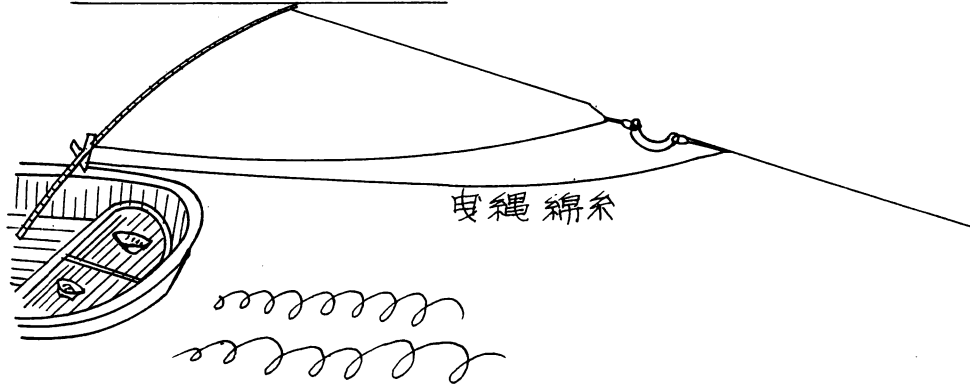
この時魚がだんだん手元に來たら成るべく手をあげてたぐり魚を水中に潜らせぬ
様にして表面へ表面へと浮かせるようにたぐるのがコツである。

魚の喰いが良いと思われる時は胴の間の左右に1人ずつカツオ竹をもつて水面を
サバキながら航行して釣るのも能率的で非常に速い、この場合腰を落して竿を構
えていないと海中に引き込まれる恐れがあるから注意すべきである。張り出し竹
のトツタリについているハネ切りは切られる様に9～12本の綿糸を用いるとよ
い。

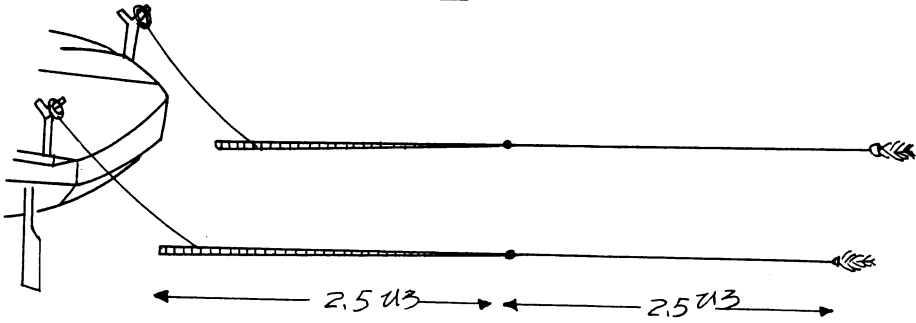
汐の透明度が良くて天気の良い日は朝早く沖へ出し日中はあまり喰付きが良くな
いから夕方を狙い、雨模様の日是好漁の日であるから汐が良くても思い切り操業
すべきである。天気が良くても水色の少々不透明の場合は午前中は特に喰付きの
良い日が必ずあるから油断をしてはならない。

イワシ等の餌を追つて沿岸近くに見える時はたいした期待はできない。

ブリ曳縄釣



マグロのシヤガマ釣



20 新潟県

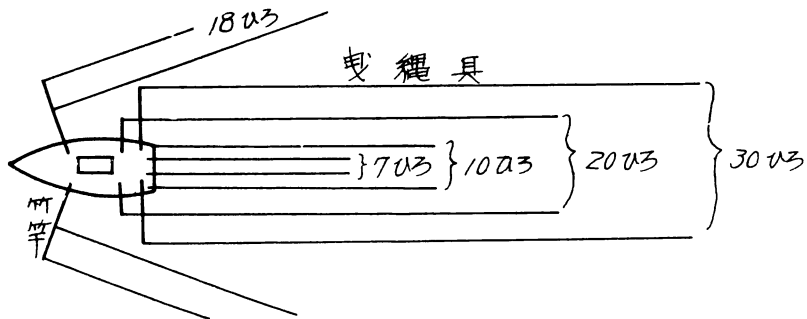
ブリ曳縄漁業

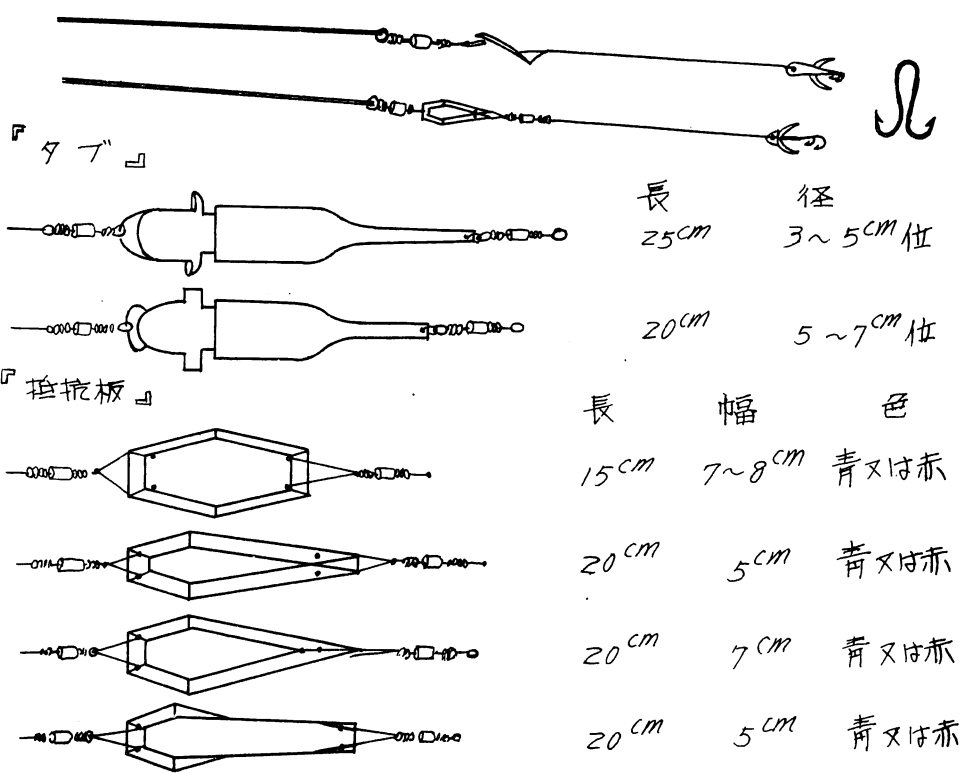
- (1) 漁法：1隻8本から12本の曳縄具を使用し、魚群の状況や適当な漁場を見て巡回作業を行う。使用曳縄数によつて乗組員数も異なるが船尾に数本の竹竿を立て、この竹竿より曳縄を垂れ対象魚が喰い付いた漁具から順次たぐりあげる。この場合1人で数本操作する。
- (2) 漁船：木造船1～3屯 3～10HP, 乗組員2～3人
- (3) 漁具：曳綱-ナイロン3分もの7～10尋…4本, 17～20尋…4本位, 30尋前後…4本位を使用する。

抵抗板-色々の種類があり現在も改良されつつあるが、下図のとおり「ダブ」「曳釣板」等を主としたものを使用している。「ダブ」はこれを用いることにより水の抵抗が激しくなり、この抵抗によつて生ずる気泡が釣針を不透明にし、漁船(曳縄具)に集る魚群を操つり餌付けをよくする。さき手(チモト)-イナダ(ブリ子)の場合ナイロン6～8厘, サバの場合1～1.4分を使用し、この長さは2～5尋としている。

擬餌針-毛針又は特殊エンカビニール製等であつて、水色、水温又は時期的や対象魚により種々併用され、毛針は瀬戸でメツキした10号4ツ目(金頭)カグラを用い、サバの場合は全部赤毛であり、イナダの場合は白毛が多く、海中の透明度のよいところでは赤毛がよく、不透明のところでは白毛がよいとされ各船共に種々改良されつつあります。

釣鉤-各漁船によつて各々特長もあるが、現在長さ5寸位のものが喰付きよく又魚をはずすのに便利であるとして一般に使用されているが、2寸から2.2寸, 5寸の各種が使用されている。





- (4) 漁場：魚体の大小によつて異なるが小型群は相当沿岸によつて漁獲されており大体共同漁業権内沖合500m、底質砂泥及び岩礁等余り左右せず水深10~15尋以深から沿岸一帯で行われており潮流に逆つて曳縄するのが一番漁獲率が良い。
- (5) 漁期：春4月頃から漁期に入り6, 7月及び9, 10月が盛漁期であり11月一杯で終漁期に入る。年によつて異なるが春から次第に魚体が大型になり、秋頃には700~800匁位になる。
本年度(昭和34年)は漁期も長く10月から11月に盛んに漁獲されている。
- (6) 漁獲高：漁期間最高漁獲-800~1,000メ, 平均-500~700メ
1日最高漁獲-70~90メ, 平均-40~50メ
- (7) その他参考事項：漁期に入ると0.6・0.7屯から1屯級では殆んど曳縄を着業しているところが多い。

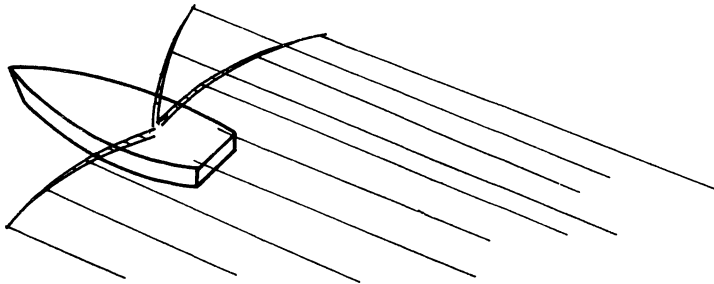
21 山形県

ブリ(イナダ)曳縄釣漁業とカツオ曳縄釣漁業は同一漁具です。

- (1) 漁法：漁場に到着と同時に竹竿を取り付け、釣糸を延ばして全速力で曳航する。魚がかかれば潜水板が裏返しになり潮流の抵抗を受けなくなるため海面に浮びあがり

それで釣獲が判明し釣糸を引き寄せせる。

日出没の2～3時間前後及び雨天、曇天の場合が好漁を見る。

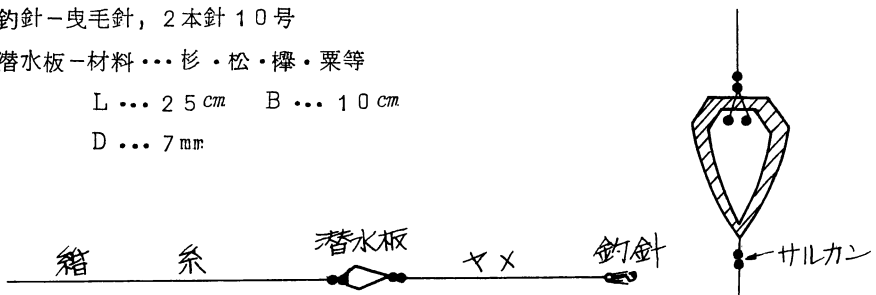


(2) 漁 船：2～1 吨 3～5HP, 乗組員 1～2 名

(3) 漁 具：

- ① 緋糸—ナイロンテグス2分, 全長30m, 10～20本曳航す
- ② ヤメー " " 5～8厘, 5m,
- ③ 釣針—曳毛針, 2本針10号
- ④ 潜水板—材料…杉・松・樺・栗等
L … 25cm B … 10cm
D … 7mm

潜水板



(4) 漁 場：水深6～30m, 底質, 潮流(方向, 強弱)は関係なし。

(5) 漁 期：	初漁期	盛漁期	終漁期
イナダ	7月	9月	11月
カツオ	8月	9月中旬	9月下旬

(6) 漁獲高：	漁期間最高漁獲	1日最高漁獲	平均
イナダ,	1,200Kg,	40Kg,	370Kg,
カツオ,	600Kg,	30Kg,	130Kg,
			平均—10～15Kg, 10～15Kg

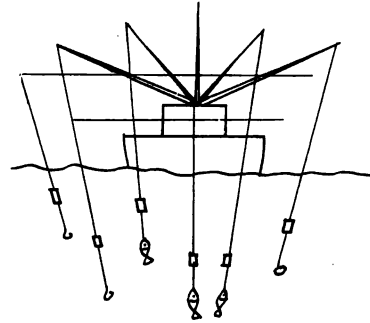
2.2 秋 田 県

本県ではマグロ曳縄漁業は行っておりませんので、ブリ及びカツオ曳縄漁具, 漁法を照会します。

(1) 秋田県由利郡金浦町地方(秋田県南部)

(1) 漁 法

- ① 略図はブリ釣漁船先端より見たものである。
- ② 各竹竿の先より釣糸が出ている。
- ③ 漁船3HPは最大速力（全速）で推進する。

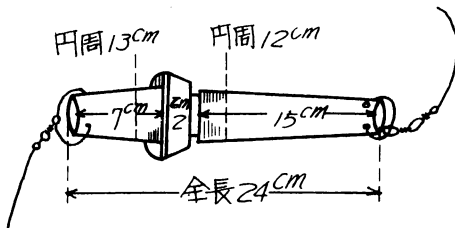


- (2) 漁船：1～3 吨 3～8HP
乗組員 1 名

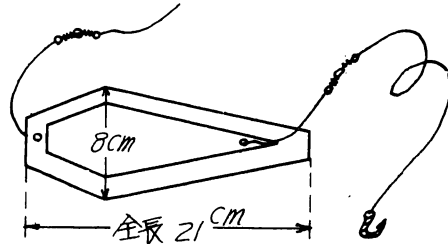
(3) 漁具

- ① 曳縄－ナイロン 6～2.5 分（魚体の大小により使用）
長さ… 33 ㍓, 27 ㍓, 18 ㍓, 15 ㍓, 9 ㍓, 3 ㍓各 2 通り計 12 本
- ② 潜水板及びウキ－板の場合約 3 ㍓程水中に入る。なお板下糸の長さは 3 ㍓, 糸の太さ 1～1.6 分程度
- ③ 餌－擬餌… カブラ（鳥の羽根）8～10 号, 装着… 赤羽根, 白羽根

(ブリ釣用ブイ)



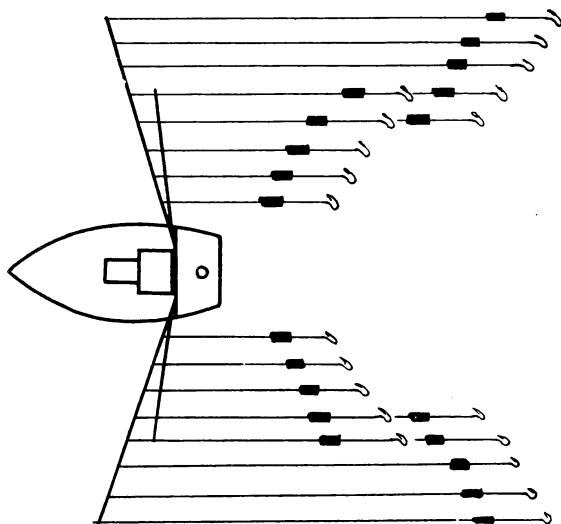
(カツオ用潜水板)



- (4) 漁場：水深－ 7～ 8 月頃, 10～21 ㍓（魚体が小さい時）
10～11 月頃, 45～60 ㍓（魚体が大きくなってから）
底質－砂, 泥 水色－笹色が特によい 潮流－関係ない
- (5) 漁期：初漁期－ 8 月初旬, 盛漁期－ 10 月頃, 終漁期－ 11 月下旬
- (6) 漁獲高：漁期間最高漁獲－ 250 Kg, 平均－ 100 Kg
1 日最高漁獲－ 70 Kg, 平均－ 10 Kg
- (7) その他参考事項：シラ釣の場合ブリ釣漁法を使用する。

(II) 秋田県山本郡八森町地方（秋田県北部）

- (1) 漁法：1 隻で釣 20 本を曳く。タブが水面を走るように船の速力を調整し, 毛鉤が水面又は水面下僅かなところを曳ける様に機関の調整と, その日のブリ（イナダ）の浮上状態を考慮して調整することが肝要である。
- (2) 漁船：電気着火及びディーゼル 5HP, 1.5 吨未満, 乗組員 1～2 人
- (3) 漁具：
 - ① 曳縄－魚紋 45 本, 長さ全部異なる。



- ② 潜水板 - 使用せず。
- ③ 餌 - 使用せず, 毛鉤を使用... 毛鉤はニューパール(第4号~第7号)
- (4) 漁場: 底質は泥, 砂が普通であるが, 河川が増水したあとの風にはよく釣れる。
潮流は曳縄にはあまり関係がないのではないかと考える。
- (5) 漁期: 初漁期 - 7月下旬, 盛漁期 - 10月頃, 終漁期 - 10月下旬。

II 改良型曳縄漁業

1 千葉県勝浦町 木村金太郎氏 (漁村・昭和30年2月)

中層2段曳縄漁業

- (1) 漁法: 速力は上曳と異り, あまり速くない方が良好である。特に, マス・サワラ・ヤズ(イナダ)・タイ等はできるだけ速力のおそい方がよい。1個の潜水板ではせいぜい5尋位より潜らないし, 釣具が少し大きいとか, イカ等の餌をつけたとき抵抗があるとすぐ潜航板が浮き上ってしまう。大小2個を使用することによつてその欠点をおぎない充分深くもぐるものである。3枚も4枚も潜航板を使用する必要はないと思う。

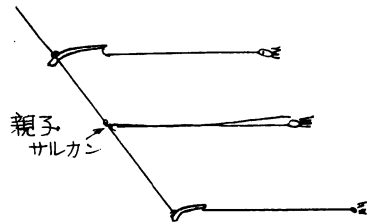
この方法でやれば, 1本のヨマ(グナワ)に少くとも3本か4本は鉤が付けられる, それ以上つけても非能率的になる。したがつて, 1隻に3名も乗り込んでいれば16本の漁具が使用できることになる。また海中深く自由に何尋でも潜るので釣れる魚の種類も多くなり, 道具がややなめになるので, 「段々に」じやまにならず, せまい漁場で多くの船が操業することのできる便利がある。

釣れる種類は、ブリ・マグロ・マス・サバ・ホツケ・ヒラメ・タイ・サワラ・ヤズ(イナダ)その他である。特にマス・ブリ・マグロ類に好適である。これ以外にもその魚に応じて漁具さえ取りかえれば恐らくどんな魚でも釣れると思う。

目下のところ水深は30尋位まで引くことが可能である。

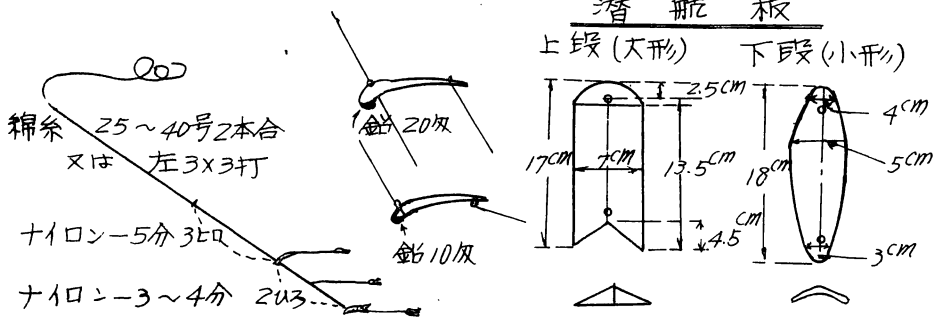
図の通り造れば25尋のヨマ

(グワナ)を延ばせば15尋潜り、さらに35尋延ばせば20尋潜る。若し同じ尋数で、もつと深くやりたければ、内側に1cm穴を移動させればさらに5尋ずつ深く潜ることになる。



両舷に張り出した方の漁具は、真中よりも5尋位長くした方がよい様である。

(2) 漁具

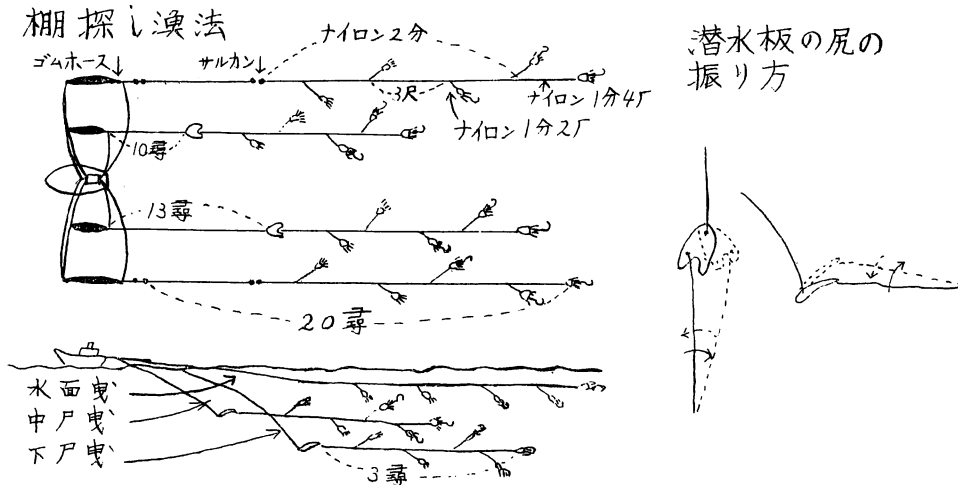


2 神奈川県三崎町 山下楠太郎氏(漁村・昭和30年11月)

棚探し曳縄釣漁法

- (1) 魚はどこにいるか：魚の泳いでいる層は、魚の種類や季節、時刻、その時の海況、天候あるいは餌の有無等によつてちがいます。これをつきとめることは、漁獲の成績をあげるのに大切です。とくに、漁の少ないときは、魚は海の上層にはいないようです。
- (2) 棚曳漁法：私の実施している中層曳縄漁法は、この魚の遊泳層を見つける手段として考えられた棚さがし漁法です。これは、曳縄を海の上・中・下層等の数段にしかけて、1番魚の多い深さの層をさがし求め、その層を専門に曳くわけです。海の中層を曳くため潜水板を使うことは今までと同じです。しかし、私は、この潜水板の改良によつて、1本の曳縄に何本も枝縄をつけて曳くようにしました。

- (3) 餌の数は多く：私の曳縄漁法によれば、できるだけ多くの餌をつけているので、非常にめだつことになつて、多くの魚が集つてくるのです。最初の1尾が釣ばりにかかれば、その魚があはれるので、他の餌もはげしく動き、さらに他の魚は餌を食うので競り合い、狂奔してきます。それで、これから発する音も大きくなつて、さらに他の魚も集つてくることとなります。しかし、すべての釣ばりに魚がかかつてしまえば、餌はなくなるから、他の魚は離れてしまいます。これを防ぐためにさらに工夫をして釣ばりをつけないオトリの餌を相当数つけておけば他の魚を集めておくことができます。また曳縄を何本も曳いておき、外側の縄に喰つた魚はそのままにして、常に魚を漁具にひきつけておき、内側の縄を交互にひきあげて能率をあげるのです。
- (4) 潜水板の動き：潜水板の動きかたは、大きい魚を釣るとき大きい餌をつけるものは、大振りとするように曳縄を潜水板の中程につけます。また、曳いたとき潜水板が水面へ切りあがる動きかたを見れば、釣糸の長さや餌の重さにしたがつて釣糸のつける位置をかえることなどによつて動きかたを調節します。
- (5) 潜水板のつかいかた：潜水板は、各種の大きさがあります。これは、漁具の大きさや曳く深さに応じて適当な大きさのものをえらびます。普通の場合には、船から潜水板までの縄の長さは1号潜水板で13尋、特号潜水板で15尋です。
- 船から潜水板までの縄の長さが同じときは、曳く深さは縄の太さによつてちがひ縄が細いほど縄にかかる水の抵抗が少なくなつて深くもぐるようになります。



- (6) 緩衝ゴムをつかう：私の曳縄では緩衝ゴムをつかいます。これは、魚のくいをよくし、道具の切損と、かかつた魚のはずれるのを防ぐためです。

潜水板の大きさ（道具の抵抗）に応じた太さのゴムホース（布のはつてないもの）を船から水面上にたらし、曳繩はその先端に結びつけます。ゴムホースの中には重みをつけるために砂を適当につめておきます。このゴムホースの効果は、次のように三つあります。

第1は、ゴムホースの下部が水面の波にうたれ、上下左右によく動き、潜水板自体の振れと相まって、擬似餌が本物の餌の動きと同じように動きます。

第2は、ゴムホースの弾力によつて釣ばりにかかつた魚の抵抗は、いちじるしくやわらげられて手で加減して釣糸をひくのと同じ効果があります。それで漁具が切れたり、魚がはずれたりするのを防ぎます。

第3は、釣糸は今までの半分位の太さで足りるために、魚の喰いもよく、潜水板の深度をより深く保つて曳くことができます。米国ではゼンマイ式の緩衝装置をつかつていますが、餌の動きをよくする点では、このゴムホースの方がまさっているようです。

- (7) 組糸の曳繩：今までの曳繩で餌の動きが悪い点は、撚糸を曳繩につかつているために、曳繩を中心として餌が回転してしまうことです。このような餌の動き方は、本物の餌魚にはみられないことで、魚の喰いはひどく悪くなり曳繩漁法の致命的な欠陥であると思います。この欠陥を防ぐために、撚りのかからない組糸をつかつて著しい効果をあげています。

Ⅲ 出漁船の操業に関する参考事項 (各県の資料から抜すい)

(1) ブリひきなわ漁業

① 天候

- i) 曇天の日は1日中喰いがよい。(東京・神奈川・静岡・山形)
- ii) 天候の変化する前日は最もよい。(岩手・静岡)

② 海況 - 潮流・水温・透明度

- i) 大潮時で風波やや高い日がよい。(熊本)
- ii) 潮流に向つて操業することが必要である。(静岡)
- iii) 潮流の早い時、漁獲が多い。(岩手)
- iv) 水温は15.5～20.0℃内外のときがよい。(熊本)
- v) 透明度の悪い場合及び汐境において漁獲が多い。(千葉・静岡)

③ 漁法 - 操業時刻・曳航法、魚の取りあげ方。

- i) 朝夕の簿明に漁獲が多い。(千葉・東京・神奈川・静岡・山形)
- ii) 午前及び午後の沿岸潮の変わり時がよく喰う。(岩手・神奈川)
- iii) ひきなわ数は1隻3本が理想的である。(北海道)
- iv) ひきなわの長さはスクリーンのあわが消えた所から15.2～22.7m延ばした所が一番理想的である。(北海道・岩手・千葉)
- v) iv)と同じであるが、魚群の濃厚な場合はモチの中でも釣れる。(岩手)
- vi) iv)と同じであるが、波のない時は更に長く延ばす。(千葉)
- vii) ひきなわの長さは、「しけ」の場合と「なぎ」の場合ではあわの消える処が異なるので加減する。(北海道)
- viii) ひきなわの間隔は等間隔でなくてはならない。
- ix) 魚が生餌についてはねている時は、速力を増して魚群の上をひいた方が喰いがよいが、喰いが悪くなった時は、速力を落して深めにひいた方がよい。(東京・静岡)
- x) 群の真上を通らず、その周囲をひきなわする。(神奈川)
- xi) ひきなわは全速力で曳航する。(山形・秋田)

④ 魚の習性

- i) 丸ブリは中層、ヒラマサは下層ほどよく漁獲される。(静岡)

(2) マグロひきなわ漁業

① 天候

- i) 曇天で風のあるとき、雨模様のとかがよい。(北海道・千葉・石川)

② 海況 - 透明度

- i) 普通晴天の日は喰いが悪いが、海水が不透明のときにはよく喰う。(千葉・石川)
- ③ 漁法 - 操業時刻, 曳航法, 魚の取りあげ方
 - i) 操業時刻は朝夕のマズミがよい。(大分・石川)
 - ii) 曳航速力はなるべく早い方がよいが, 全速力で走る必要はない。(石川)
 - iii) 船は千鳥運航であるが, 喰いの立っているときは直線コースで思いきり航走した方がよい。(石川)
 - iv) 船は風波を横に受けて操業する。(大分)
 - v) メジはスクリーヌ渦をきらわぬからひきなわは短くてよい。(千葉・石川)
 - vi) 漁のよいときは, ひきなわの長さを適当に縮める。(和歌山)
 - vii) 魚がかかったら風上にかじを切つて走る。(千葉)
 - viii) 左右両端に喰つた魚は, すぐ取りあげずオトリとしておく。(北海道・大分・兵庫・石川)
 - ix) 魚をたぐり込むとき, 魚が手元に来たらなるべく手をあげてたぐり, 魚を水中にくぐらせぬよう 表面に浮かせながらひき寄せる。(石川)
 - x) 鉤にかかった魚は引きあげると血を吹き出す, 血は海に流さぬようにすべきである。(石川)

④ 魚の習性

- i) 魚の喰いがマズミによいのは, 魚群が海面近く浮上するためである。(兵庫)
- ii) 2~3尾1度に喰つたときは, 後に引返さず, 思い切つて風上に1時間でも2時間でも走つてみることである。(石川)
- iii) 同一場所で喰いが止んで他へ移動しても, 前場所の魚は40分ぐらいでその付近に集つて来るから, 再び回航すれば釣れる。(兵庫)
- iv) 擬似餌の角は, なるべく白つぼいものをさけた方がよい。(青森)
- v) マグロは1尾で遊泳することはなく, 大なり小なり群となつて回遊する。(北海道)
- (3) カジキひきなわ漁業
 - i) 多少波立つたときの方が, 喰いはよい。(千葉)
 - ii) 日中はあまり漁の期待はできぬ。(千葉)
 - iii) 魚が喰つたら, 逃げる方向に船をスローで走らせなわをたぐり, 銚で突く。(千葉)
- (4) サワラひきなわ漁業
 - i) 大潮の満干潮の変わり目及び日の出, 日の入りがよい。(福岡)
 - ii) 曳航速力は1.5節内外がよい。(福岡)
 - iii) 曳航速力は6節内外がよい。(熊本)
 - iv) 魚群の真上を横切ることは極力避け, 魚群の周囲を包むごとく航走する。(熊本)

IV 各種曳縄漁具一覽表
ブリ曳縄漁具一覽表

各 項 別	魚 名	曳				繩				曳 針 深 度	沈 降 漁 具		餌	
		本		繩		手		曳 針 距 離			潜 水 板	鉛		シ ミ
		1 集 の 身 繩 数	種 類	規 格	長 さ	先 種 類	規 格	長 さ	奥 針 距 離					
北海道	ブリ	2~3本	綿糸6,8,10号2本合せ各46m, 25号15m	152m	ワイヤ-3ツ絞 24#	2~3m	46~53m	表層				生		
青森	ブリ	12~20本	ナイロン12~20号	15~30m	テグス	2m	100~150m	表層				生		
岩手	イナダ ワラサ	6本	ナイロン8号	適宜	ナイロン 8号	2m		中層	○			生		
福島	イナダ	3本	麻糸1.3~1.5分15m, ナイロン12~15号15~23m	30~38m	ナイロン 10~12号	3m		表層		675g1ヶ 225~265g1ヶ		サンマ・イカ		
千葉	ブリ	3本	綿糸20# 20号76m, 人造テグス13, 12号2本合せ 14号計91m	167m	人造テグス 11号	23m	46~53m	中層	○			サンマ・イカ		
〃	ワラサ	3本	綿糸20# 50号 2本合せ 106m	212m	ワイヤ-25~26#	2m		表層				サンマ・イカ		
〃	ワラサ	2本	ナイロンテグス60~70号	5カテ	ナイロンテグス40号	2カテ		中層	○			サンマ・イカ		
東京	ブリ	3本	鐵鱗40号	242m	鐵鱗 30号	23m	106~121m	表層		375g1ヶ		サンマ イカ 半分掛		
神奈川	ブリ	3本	ナイロン10号3本 組糸12~26m, ナイロン20~50号15m	41m	ナイロン14~16号	5~6m	15~45m	中層	○			イカ 1本掛		
静岡	ブリ	2本	綿糸150m, 麻49号 逆巻繩45m, ナイロン60~100号50m	245m	ナイロン30~50号	15m	150m	中層		56~75g1ヶ		イカ 1本掛		
福岡	ブリ	1~2本	ワイヤ-29-30-31-32# × 6本 各50m 36# × 7本 × 6m	158m	ナイロン 30号	3~5m		中層		128ヶ		サンマ・イワシ・イカ		
熊本	ブリ	6本	綿糸20# 80号 15m, ナイロンテグス100号46m 60号60m	121m	ナイロンテグス 30号	15m		中層		1.13ヶ		イカ 1本掛		
鳥取	ブリ	3本	ナイロン50~60号	80~100m	ナイロン6~20号	7~8m		表層		1.39ヶ		イカ・サヨリ		
〃	ブリ	3本	ナイロン70号53m, 50号53m, 30号53m	159m	ナイロン10~20号	8~15m		中層		1.39ヶ		イカ 1本掛		
〃	ブリ	3本	〃 〃 〃 〃	159m	ナイロン 30号	枝数により異なる		中層				イカ 1本掛		
京都	ブリ	1本	麻糸30号121m, 絹糸 16号 60m	117m	ナイロン 14号	8~9m		表層		750~1,130g		イカ 1本掛		
石川	ブリ	3本	綿糸20~25号 106m, 逆巻 4.5号 11m	117m	ワイヤ-23子打ち	2m		1.5m以下	○	863~1,690g		イカ 1本掛		
新潟	イナダ	8~12本	ナイロン3号3号および逆巻 3.5号	11~46m	ナイロン6~8号	3~8m		表層~中層	○	375~563g		イカ 1本掛		
山形	イナダ	10~20本	ナイロンテグス20号	30m	ナイロンテグス5~8号	5m			○					
秋田	ブリ	12本	ナイロン25~60号	3~35m	ナイロン10~16号	3m			○					

号はすべてmに換算した(端数4捨5入)

綿糸はすべて号に統一した

註 貫はすべてkgに換算した

潜水板の欄の○印は潜水板を使用しているもの

テグスの1分を10号として統一した

曳航距離とは船尾から釣針までの距離

料 擬 似 餌	漁 期	漁 場				そ の 他 の 漁 具
		距 岸	水 深	潮 流	底 質	
発光プラスチック角に桃色鳥毛	6月 ~ 11月					トツタリ重りを使用する
鳥 毛	9月初旬~10月下旬	1~5 湊	40~50m	大した影響なし	砂又は泥	ダブを使用する
パイプ小角9号・皮はナイロン	8月 ~ 9月	沿 岸				
○	7月 ~ 11月	沿 岸	関 係	な	し	コケシを使用する
	7月 ~ 10月	沿岸水と沖合 海流の潮境	"	"	"	
牛・クジラ・メカジキの角	7月 ~ 10月	"	"	"	"	
ビニール黄色・桃色	2月 ~ 6月	5~6 湊				釣針の上部に針金8#で 弓型の回転止めをつける
	10月中旬~1月下旬	1~2 湊	関 係	な	し	緩衝ゴム使用
牛角・鳥毛又はビニール製タコ	7月初旬~11月下旬		7.5~300m		岩礁地帯	"
	10月 ~ 4月					
	11月 ~ 1月					
鶏毛又はゴム製魚型	11月 ~ 3月	10 湊以内	30~90m			
夜光プラスチック角・鳥毛	3月 ~ 5月 10月 ~ 12月			早い方がよい		
	" ~ "			"		
ビニール製	3月 ~ 5月 9月 ~ 11月	沿 岸		無いか又は弱い 時	岩礁地帯	
各種角鳥毛又はナイロン布の桃色	4月下旬~10月下旬	沿 岸				
毛針白毛が多い, 特殊エンカビ ニール製	4月 ~ 11月下旬	500m以 内		潮に逆つて曳航 する	関係なし	ダブを使用する
毛 針	7月 ~ 11月		6~30m	関 係	な し	
カブラ8~10号赤白羽根	8月初旬~11月下旬		7~8月 10~21m 10~11月 45~60m			ダブを使用する

マグロ、カジキ、カツオ、サワラ曳縄漁具一覽表

各 項 別	魚 名	曳				繩			沈 降 漁 具			釣針深度	
		1巻の 曳縄数	種 類	規 格	長 さ	種 類	規 格	長 さ	曳 航 距 離	潛 水 板	鉛		ミ グ
北海道	マグロ	2~5本	絹糸△, 8, 10号2本合 各46m, 25号15m		152m	ワイヤー-3ツ繰 24#	1.8~2m	100~150m				表層	
青森	マグロ	12~20本	ナイロン12~20号		15~30m	テグス	2m					表層	
福島	マグロ	3本	麻糸1.3~1.5分 15m, ナイロン12~15号 15~23m		30~38m	ナイロン 10~12号	3m	15~23m				表層	
千葉	メジ	3本	絹糸15~25号又はナイロンテグス20~30号		38m	ワイヤー-40#又はナイロン20号	1.8m					表層	
千葉	メジ	3本	絹糸サナダ編, ナイロンテグス26~30号		30m	ナイロンテグス 22号	1~1.5m	30m				表層	
和歌山	マグロ	2本	絹糸8~9号50~38m, ワイヤ-27# (絹糸キヤマ) 45m		42.5~54.5m	ワイヤー 27#	2.5m					表層	
和歌山	仔マダコ	4本	絹糸20# 20~30号 24~41m 麻芯又はワイヤー芯にセキヤする		23~3m	ワイヤー-25~26#	2.5~3m	18~41m				表層	
宮崎	仔マダコ	3本	絹糸20# 5~6号 18~20m		25~3m	ナイロン 30号	2.5~3m	60m				表層	
大分	ヨコ	6本	絹糸3号 15m, セキヤ50号 (径2mm) 45m		60m	ワイヤー 21~22#	3m	24~36m	半数使用			表層	
熊本	ヨコ	2~4本	セキヤ50# 11~23m, 絹糸300~350本 11m		17~33m	ナイロンテグス 30号	0.7~1m	11~30m	2本使用			中層	
兵庫	ヨコ	2~3本	絹糸20# 80号		11~30m	ナイロンテグス 30号	1.3m	11~23m	○			中層	
石川	メジ	6本	ナイロン80号		11~23m	ナイロン 80号	1.3m	12~18m	○			2~3m 表層	
千葉	カジキ	2~3本	絹糸150号又は麻3子繰30m 本麻15m		45m	ワイヤー 7本綴	7.6m	45m以上				表層	
千葉	カツオ	3本	絹糸サナダ編, ナイロンテグス26~30号		30~61m	ナイロンテグス 22号	1~1.5m	30~61m				表層	
和歌山	マルソウダ	11~12本	絹糸20# 9~20号		30~45m	ナイロン 7~10号	2.3m		○			約1m 表層	
高知	ソウダカツオ	3~8本	ナイロンテグス12号		2.5~3m	ナイロンテグス0.6~0.7号	1.5m	竹竿共 5.3~7.5m	○			表層	
山形	カツオ	10~20本	ナイロンテグス20号		30m	ナイロンテグス0.5~0.8号	5m		○			中層	
秋田	カツオ	12本	ナイロン 6~25号		3~33m	ナイロン10~16号	3m		○			3m 表層	
千葉	ワラ	3本	絹糸サナダ編, ナイロンテグス26~30号		61m	ナイロンテグス 22号	1~1.5m	61m				表層	
福岡	ワラ	4本	ナイロン糸76m, ナイロン30号 4.5m, 20号3m		83m	針金 24~25#	0.17m	79~109m				15g以下の10ヶ	
熊本	ワラ	5本	絹糸20# 80号 11m, セキヤ30m		11~41m	ワイヤー	68m					600g	

餌	料		漁 期	漁 場				そ の 他 の 漁 具
	餌	似 餌		距 岸	水 深	潮 流	底 質	
トビウオ, サバ メジカ	白い色はさける 桃色鳥毛にブルモースを混ぜる 鳥毛		7月上旬~11月上旬 9月初旬~10月下旬	1~5 裡	15~23m 40~50m 関 係	大した影響なし な	砂又は泥 し	トツタリ重りを使用する ダブを使用する コケンを使用する
	牛角又はメカジキの鼻骨, 桃色鳥毛	○	7月 ~ 11月 10月 ~ 5月	沿 岸 沿岸水と沖合水の 境界の沖側 12 裡付近				
	桃色鳥毛又はビニール		10月 ~ 12月					
	鳥毛又はビニール	○	11月 ~ 3月	4~5 裡	300~400m		砂, 岩盤	
	スズ, 鉛角, 三味線皮鱗毛 ホロ 6号 前後		3月 ~ 9月 9月 ~ 11月 12月 ~ 4月		450m以深 70~120m	速い方がよい	砂・礫・礁 貝殻埋りの砂 で平坦な処	疑似餌が潜水板の役もする 緩衝ゴムを使用する
クロームニツケル, 貝, 鯨牙 牛角又は鉛角2ツ目, 4ツ目, キジ 毛, 紅鳥毛	○	8月下旬~11月下旬	1 0 裡付近	60~250m	潮流 0.5 節	砂 泥		
イカ, サバ, 1本掛 サンマ, 2本掛			マカジキ 12月~3月 その他のカジキ7月~9月	沖合潮流中				
	赤ビニール		10月 ~ 12月	15~20 裡	100~140m			
	ホロ2本爪 2~3号		11月 ~ 3月	黒潮分流又は交流 の入り込む海域 0.5~5 裡	50~100m 黒潮分流の流入 する潮目付近 6 ~ 30m	上り潮の軟沙の 場合がよい 関 係 な し	砂, 岩盤 主として岩盤 地帯	
	ウスバハギの魚皮, 釣針2本爪 毛 針		9月 ~ 3月 8月 ~ 9月下旬					
	カアラ8~10号, 赤白鳥毛		8月初旬~11月下旬					
	赤ビニール	○	7月 ~ 11月 7月 ~ 9月	1~2 裡 4 裡	18 ~ 30m			
	9cm 2本爪鉤 鱗毛							

参 考 資 料

岩手県水産試験場	昭和29年12月	岩手県の漁業の実相
漁対文化協会	昭和30年2月	中層2段曳縄漁業(千葉県・木村金太郎)
"	昭和30年11月	棚深し曳縄漁法(神奈川県・山下権太郎)
"	昭和31年9月	ブリの底曳縄漁法(静岡県・下田町須崎ブリ 曳縄研究会)

担 当 者

大島分場 漁 労 指 導 室

技 師 今 井 丈 夫